

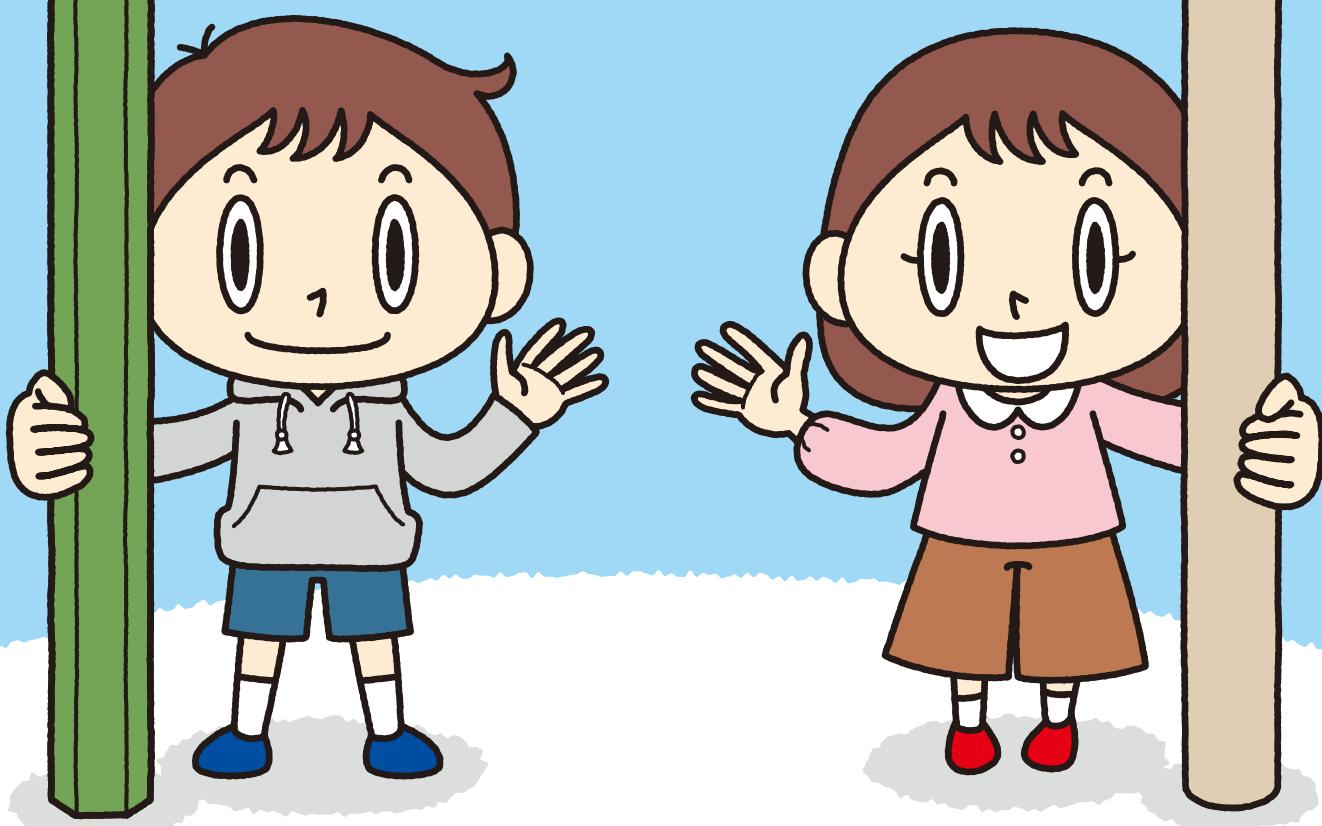
第45回 全労済 東京 小学生作品コンクール



テーマ

作文：つづけていきたいこと

版画：自由課題



主催：全労済東京推進本部

後援：東京都教育委員会



挨拶する高須本部長（後ろは手話通訳）

喜びと笑顔に満ちた表彰式



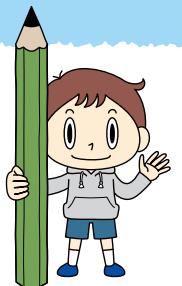
二月二十五日（日）十時三十分より、全労済東京会館三階会議室において、第四十五回全労済東京小学生作品コンクールの表彰式が開催されました。表彰式には、作文・版画の金賞・銀賞入賞者三十名と、そのご家族やご指導された先生方、総勢一〇〇名の方々にご出席いただきました。

表彰式は、全労済東京推進本部の高須則幸本部長の挨拶で始まり、その後、入賞者一人一人に表彰状が手渡されました。受賞者の皆さんは緊張しながらも、堂々と表彰状を受け取られていきました。

続いて、作文の部入賞者を代表して、東京都のコンクールで金賞を受賞された皆さんの中から東京学芸大学附属世田谷小学校一年生の井上ミモザさんによる代表朗読が行われました。井上さんは、一年生ながらとても落ちついて作文を読み上げ、会場は大きな拍手に包まれました。

最後に、作文の審査を担当された松江宜彦先生と版画の審査を担当された田中明美先生にそれぞれの講評をいただき、作文や作品で自分の気持ちを素直に表現することのすばらしさ、大きさについてお話をいただきました。

閉会後、作文・版画の部門ごとに記念撮影を行いました。全労済公式キャラクター「ピットくん」も登場し、緊張もほぐれたのか喜びいっぱいの笑顔があふれた撮影となりました。なお、東京・四谷三丁目の「CCA Aートプラザ ランプ坂ギャラリー」にて、二月十日から二月十九日まで金賞・銀賞・銅賞の作品の展示会を開催し、多くの方々に受賞作品をご覧いただきました。



はじめに



小学生作品コンクールは、1973年度の第1回開催以来、今年度で45回目（45年度目）を迎えることができました。今回は、作文447点、版画1,419点、合計1,866点の素晴らしい作品をお寄せいただきました。当コンクールに向けて、一生懸命作文を書き版画を作り、応募してくださいました皆さん、本当にありがとうございました。

今回の作文のテーマは「つづけていきたいこと」でしたが、今回のテーマをきっかけに、今まで続けていたことやこれからも続けていきたいことなど、たくさんの思いにあふれた作品を寄せていただきました。

版画は今年度も「自由課題」でした。今年の干支の犬をはじめ、馬、うさぎなどの動物、想像上の風景や不思議な建物などの独創性にあふれた作品がたくさん集まり、昨年より400点以上も多くのご応募をいただきました。

また、紙版画や木版画、単色の作品や多色の作品など、素材や色を上手に使い、さまざまな技法で制作いただきました。

本来は皆さんからご応募いただいた作文・版画の作品のすべてを紹介したいところですが、紙面の都合上、作文・版画の金賞・銀賞に輝いた32点のみのご紹介とさせていただきます。ご容赦ください。

最後になりますが、ご審査いただいた先生方をはじめ、ご後援いただいた東京都教育委員会、応募にあたりご指導とりまとめをいただいた先生方、そのほかご協力いただいた皆さんに心より御礼申し上げます。

全労済東京推進本部

表彰式の様子



表彰式の会場に受賞作品を展示しました。



作文の部を代表して受賞作品を朗読しました。



少し緊張気味の受賞者の皆さん。

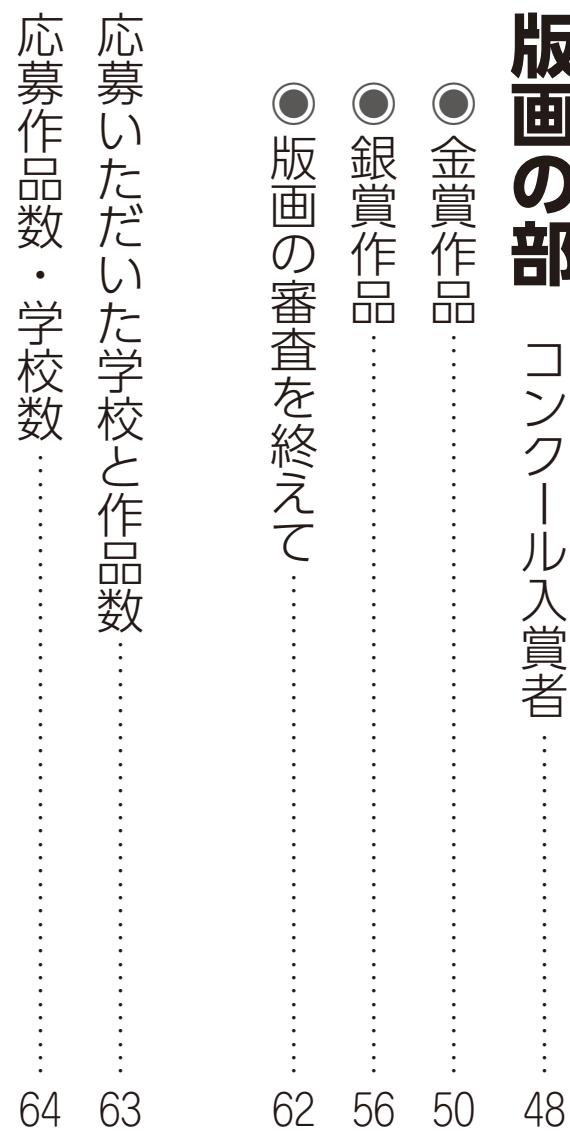
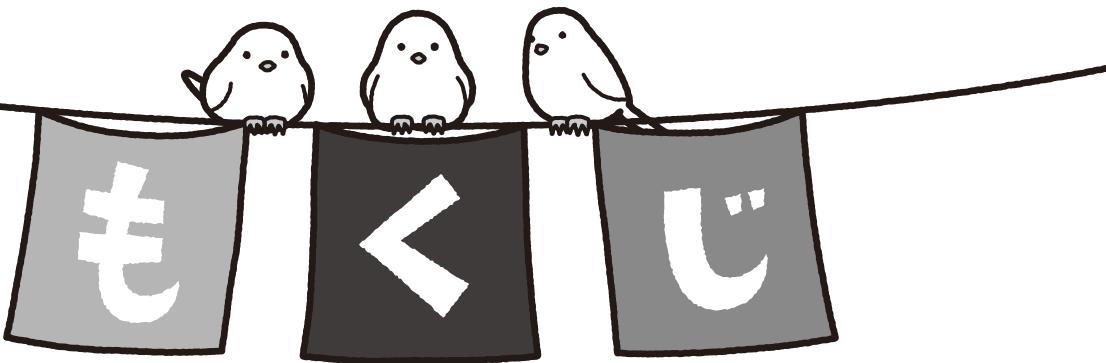


審査員の先生方に講評をしていただきました。



受賞者の皆さん





作文の部 コンクール入賞者

- 金賞作品 10
- 銀賞作品 8
- 作文の審査を終えて 25

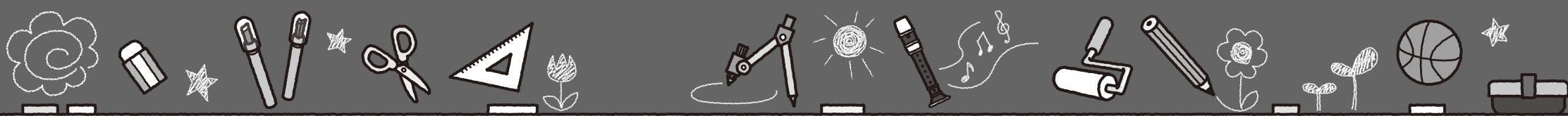
作文の部 受賞者の皆さん



版画の部 受賞者の皆さん



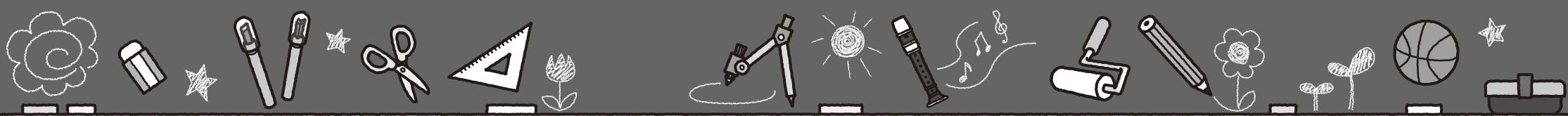
作文の部



コンクール入賞者



おふるわりの手つだい	東京学芸大学附属世田谷小学校（1年）	成蹊小学校（3年）	井上さん	こばやしさん
ぼくは野球が大好きだ	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部（4年）	日黒星美学園小学校（1年）	河本さん	かわもとさん
神様からのおくり物の中身	光塩女子学院初等科（5年）	光塩女子学院初等科（2年）	大河内さん	おおこうちさん
恐れずに支えあう	練馬区立泉新小学校（6年）	光塩女子学院初等科（3年）	菊池さん	きくちさん
つきはでいるからつづけたいおふるわり	練馬区立立野小学校（1年）	光塩女子学院初等科（2年）	御園生さん	みそのう
わたしのつづけたいこと	日黒星美学園小学校（1年）	光塩女子学院初等科（3年）	鮫島さん	さめしまさん
わたしの大じなモルモット	光塩女子学院初等科（2年）	光塩女子学院初等科（4年）	城間さん	しろまさん
地きゅうをすくうために	光塩女子学院初等科（5年）	光塩女子学院初等科（5年）	山口さん	やまぐちさん
大好きなピアノ	光塩女子学院初等科（6年）	光塩女子学院初等科（6年）	江口さん	えぐちさん
つづけていきたいこと	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部（4年）	足立区立東渕江小学校（1年）	樋口さん	ひらぐちさん
だれかのために	光塩女子学院初等科（5年）	大田区立山王小学校（1年）	平林さん	ひらばやしさん
「あたりまえ」の尊さ	中野区立白桜小学校（5年）	光塩女子学院初等科（1年）	幹大さん	かんたさん
ピアノとの絆	練馬区立泉新小学校（6年）	光塩女子学院初等科（1年）	岡海英さん	おかみえさん
つづけていきたいこと	足立区立東渕江小学校（1年）	中村翠さん	なかむらすいさん	中村さん
ぼくのつづけていきたいこと	大田区立山王小学校（1年）	開発凍乃さん	かいはつりんのさん	開発凍乃さん
つづけていきたいこと	光塩女子学院初等科（1年）	深央さん	みおさん	深央さん
まほうのかたもみ	光塩女子学院初等科（1年）	草薙美智子さん	くさなぎみちこさん	草薙美智子さん
はずかしがらずに手をあげる事	墨田区立両国小学校（3年）	茨田紹介さん	ばらだひろせさん	茨田紹介さん
絶対に諦めたくないこと	聖徳学園小学校（3年）	松山尚さん	まつやまひろしさん	松山尚さん
助ける勇気	墨田区立両国小学校（3年）	寿恵村	すゑむらすいさん	寿恵村
つづけていきたいこと	日黒星美学園小学校（3年）	坂野大空さん	さかのぞらさん	坂野大空さん
ヒマワリの笑顔	墨田区立両国小学校（3年）	高橋志輝さん	たかはししひきさん	高橋志輝さん
目覚し時計	日黒星美学園小学校（3年）	藤井玲奈さん	とういりなさん	藤井玲奈さん
あきらめない力	墨田区立両国小学校（3年）	中山雅一郎さん	なかやままさきょうろうさん	中山雅一郎さん
だからがんばる	墨田区立両国小学校（3年）	齋藤瑛一郎さん	さいざわいとうりょうさん	齋藤瑛一郎さん
あきらめない	墨田区立両国小学校（3年）	市澤泰一郎さん	いちざわたいとうりょうさん	市澤泰一郎さん
多摩川を愛する	墨田区立両国小学校（3年）	大川美和さん	おおかわみわさん	大川美和さん
ぼくの気持ち	墨田区立両国小学校（3年）	果子雅由さん	かこまさゆきさん	果子雅由さん
世界のだれもが平等に	墨田区立両国小学校（3年）	長尾唯さん	ながおゆいさん	長尾唯さん
信頼関係	墨田区立両国小学校（3年）	稻宮高須さん	いなみやたかすさん	稻宮高須さん
夢の大切さ	墨田区立両国小学校（3年）	佐藤稲宮さん	さとういなみやさん	佐藤稲宮さん
本は人生の地図	墨田区立両国小学校（3年）	裏桜司月さん	りさくらじゅくさん	裏桜司月さん
生きたい	墨田区立両国小学校（3年）	悠輔さん	ゆうすけさん	悠輔さん
つづけていきたいこと	墨田区立両国小学校（3年）	唯美早紀さん	ゆいみさきさん	唯美早紀さん



金賞

おふろそじのお手つだい

東京学芸大学附属世田谷小学校（1年）

井上 ミモザさん

おふろそじのお手つだい

一年 井上 ミモザ

わたしはおふろが大きです。おとうさんとおふろに入ると私は、かみのつけをこしらへておふろにつかると、うみにかけたようになります。一日できごとや、おいしかったきょうよくのはなしをおふろではるのは、おかしくね。たのしがつたことをおもいだし、二人でわらいあいます。一人で入ってもたのしいのがおふろです。水ふうせんをあげてもしかられないし、おまつりのように、スーパー・ボールすべくもできます。あつい日はあせがながれて、さむいじきにはからだがあたたまって氣もちがよいからです。

ある日、おとうさんが「なにかおてつだいをきめようか」。

おふろそじをはじめたばかりのころは、しつぱいをたく山しました。シャワーの水をあたまからかぶってびしょぬれになつたり、スプレーせんさいをつけすぎてあわがなかなかかとれなかつたこともあります。しつぱいをしたり、水がつめたいとかんじたこともありましたけれど、おふろそじをやめようとはおもいませんでした。なぜなら、かぞくがとてもよくこんでくれたからです。

一人でおふろそじをした日、おかあさん

は、「ミモザちゃん、えらいね。ありがとうございます。おかげでおやうしょくのしたくがはかどったよ」とほめてくれました。そのよる一晩におふろに入つたときには、「ああ、ミモザちゃんがあらってくれたおふろに入るのは、気持ちがいいねえ。一日のつかれがふきとぶよ」。

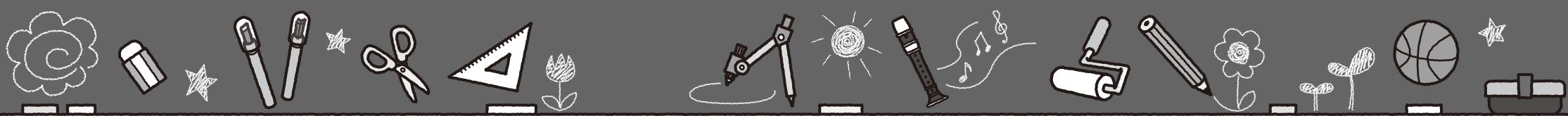
といつて、わらいました。わたしもにっこりえがおになつて、おふろそじのお手つだいをはじめよかったです。そして、かぞくのためにはたらくことの大せつさです。わたしは、ますますおふろそじのお手つだいがすきになりました。おふろそじのお手つだいをはじめたなつ

は、よくそうをわすれであらつていました。けれど、きせつがすすんであきになるころには水のつめたさががんじられるようになります。ふゆのはじめには、ついに手があかくなつた。ふゆのはじめには、ついに手があかくなつた。でも、わたしはまふゆになつたいままでおふろそじのお手つだいをつづけています。おふろだからできるたのしいあそびができて、かぞくとあたたかいおゆにつかってはなしがはずみます。一日のつかれやからだのよしがはります。

これをあういながして、あたらしい一日をきれいなこころでむかえられるだけをしてくれるのがおふろです。おそうじをしていないうふろのためにも、きれいにわそじをしてあげないといけないとわもつたかうです。おふろそじは、これからもつづけていきたいお手つだいになりました。

おとうさんがプレゼントしてくれたピンクのゴム手ぶくろがわたしのあたらしいあいぼ

作文の部



金賞

もも色の気持ち

成蹊小学校
成蹊小学校

ひいおばあちゃんは農家に生まれ、小さいころから家のお手伝いをしていました。青春時代は戦争中で、戦争が終わったら結婚と育児に仕事を。何だか少しかわいそうな気がしたが、ひいおばあちゃんは家にたくさん動物がいたし、会社のみんなとワイワイしながらやる仕事もなかなか楽しそうだよ。

と、言っていた。

成蹊小学校
成蹊小学校

もも色の気持ち
三年 小林 珠梨

「え、ゾウ見た事ないの？」
私にはゾウを見た事のない九十三歳になるひいおばあちゃんがいる。
「子供と一緒に動物園に行かなかっただの？」
と聞いてみた事がある。
「自分達で会社をやっていたから毎日仕事が忙しくて、遊びに行く時間なんてなかっただな。」

成蹊小学校
成蹊小学校

病院でね、ねている時に血をはいてしまって、緊急手術になったの。今は安定したけれど、もう年だから……てお医者さんは言つてた。

教えてくれた。その話を聞いている間は、頭の中が真暗やみ。心も真暗やみにおしつぶされそうだ。

するとお母さんは、私の体をギューピとして、大丈夫、ひいおばあちゃんは強い人だから。すぐによろしくまた会えるよ。

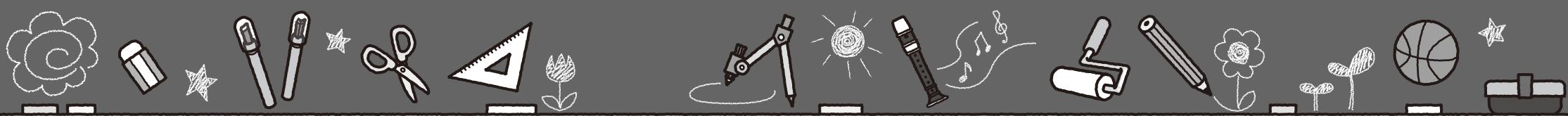
と教えてくれた。

成蹊小学校（3年） 小林 珠梨さん

うです。おとうさんやおがあさん、わたし、そしておふうもピカピカでいらっしゃるよう、おふうそうじのお手つだいをがんばりたいともいいます。

評せん
評ひょう
一日の終わりに、一人で、ま
たは家族とつかるお風呂。そこ
は、温まりながら体をきれいに
するだけではなく、話をしたり、
お湯で遊んだりできる、井上さ
んにとつて特別な場所なのだと
いう思いが伝わってくる。さて、
文章です。その特別な場所の
うじを、数々の失敗や冬の水
の冷たさにくじけず続けたこと
が、お母さんとの会話やくわし
い出来事でつづられた、心に響く
作品です。

作文の部



「困っている人がいたら助ける。すてきだな」と思つた物は写真をとつて忘れないうちにこれが私のつづけていたい事。

少しの間会えないのはさみしいけれど、会った時のひいおばあちゃんの笑顔を考えると、心がぽかぽかも色にそまる。昔から春は好きだけれど、こんなに待ち遠しく思うのは初めてかもしれない。

施設は、冬の間は小学生は入れない規則があるので、しばらく会えていない。何をしたらよろこんでくれるのか毎日考えている。

「あ、そういえばゾウを見た事がないって言つてたな。今度、写真を見せてあげよう。今日の空、すんでいてとてもきれいだな。あ、あの花小さくてかわいいな。そうだ、私が見たすきな物を写真にとつて、春になつたら見せてあげよう。」

成蹊小学校

「いいよ。」
と答えてくれた。
私はだきしめた。ギューッと。そして友達の顔を見てみた。すると、もう泣いていなかた。目に涙はまだ少しあつたけれど、二コニコかわいい笑顔を見せてくれた。そればかりか、私をギューッとだきしめてくれた。私の顔も笑顔になつて、二人ともとても幸せな気持ちになつた。

(困っている人を助けると、自分まで幸せな

からない。思い切つてギューッとだきしめて良い?」
と聞いてみた。友達はと聞いてきた。お母さんのかかるのか考へたが、かける言葉が見つからない。思い切つてギューッとだきしめて良い?」

成蹊小学校

私の事が最初わからなかつた。何度も何度も自己紹介したら、思い出してくれた。でもすぐには、忘れてしまう。ちょっぴりこみしこれど、ひいおばあちゃんの笑顔がたくさん見れたので、私はうれしかつた。

「また来るね。」
と私が言うと
「また来てね。」
と花が咲いたようにほほえんでいた。

今は、退院して施設でくらしている。その

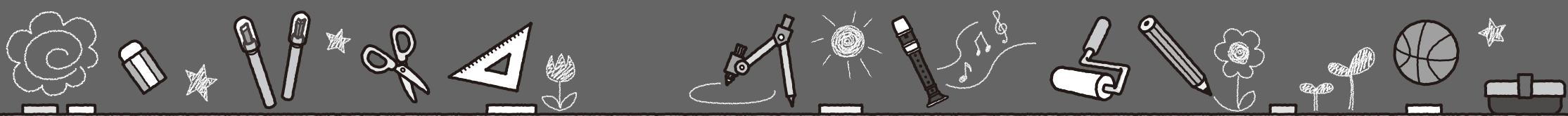
と聞いてきた。もちろん返事は行く!!
もともと少し認知症だつたひいおばあちゃんが、入院してから進行してしまつたのかどうか、家に帰ると、お母さんが私に「ひいおばあちゃんのお見まいに行けるようになつたけれど、行く?」と聞いてきた。もちろん返事は

成蹊小学校

評選
せん
評
ひょう

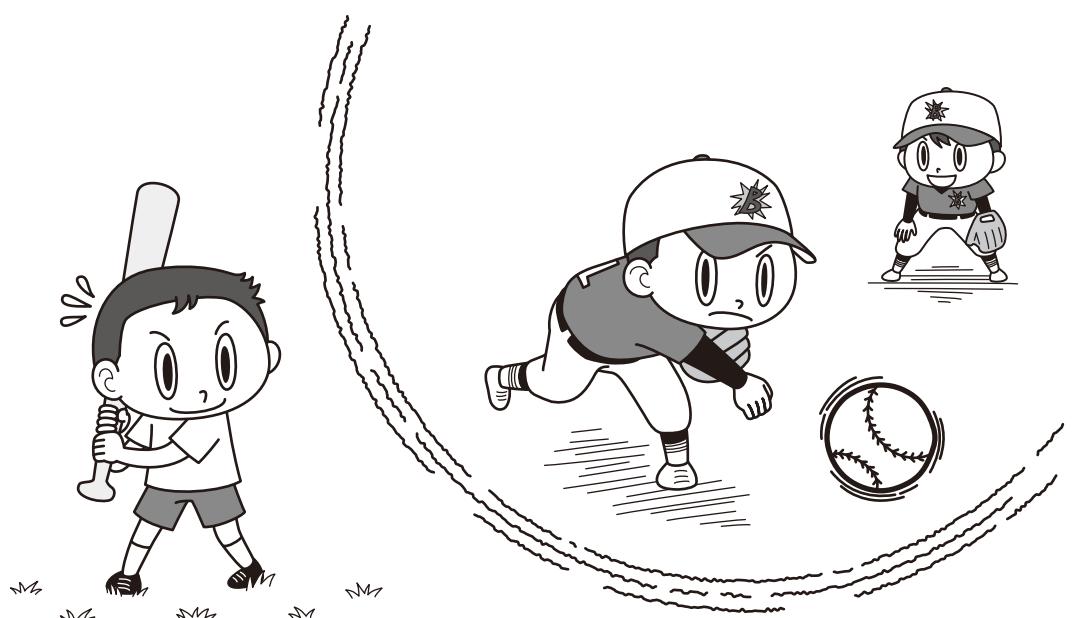
「えつ、ゾウを見た事ないの?」
農家に生まれ、戦争や育児と仕事で、家族のために忙しくしてきたおばあちゃんの人柄と小林さんの思いが、書き出しの一言から見事な展開で表現されています。入院を経て、春までは会えない生活を送つているおばあちゃんに対する気持ちが、学校の友達が困つていていたエピソードを織り交ぜて構成され、「ぽかぽかもも色」の世界が目に浮かぶ作品でした。

作文の部



金賞

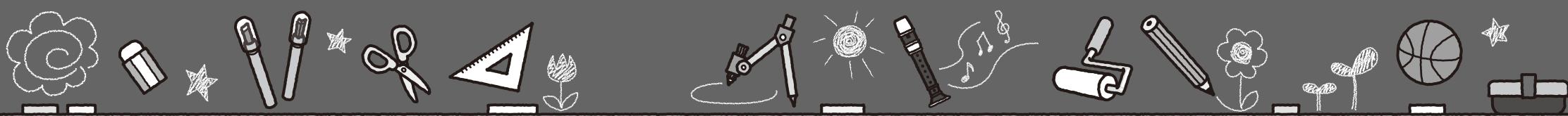
目の兄は六年生の時、優勝して全国大会に行
った。ぼくもこの仲間と全国大会に行きたい
と強く思つた。ぼくは、毎日練習をしようと
決めた。月、火、木の平日練習は休まず参加
して、水、金は父と一緒に練習をした。
しばらくして、調子が上かつてきた。夏の
練習試合で、久しごとに登板。たくさん三振
が取れた。秋には三打數三安打の試合ができ
た。うれしかった。背番号もろ番に戻つた。
だけど、まだまだ二枚からだ。冬は平日練
習がないので、自主練習を始めた。ランニング
グ、坂道ダッシュ、すばりなどと、春まで
体を強くしたい。
ぼくの目標は日本ハーフアイターズの石井
投手。なんちようでもプロ野球選手になれる
と教えてくれた。ぼくもプロ野球選手にな
る。ころの子やな人ちようの子に、がんばれ
ばな人でもな木弓よと教えておいたいと思つ
ている。
だから、今の目標は六年生の時に全国大会



初めて公式戦でフライを取りたことは忘れない。みんなが拍手してくれたのを覚えている。
今年の五月、練習試合で初めてピッチャーで四番をまかされた。うれしかった。体育で左足を筋肉炎にしていたが、
「けがは大丈夫です。」
と、言って試合に出て投げ続けた。それで足がしまった。練習ができたから、たので、試合に
背番号も四番に落ち、試合に出られないので、悔しくて、気持ちもくたくさして、家で練習しなくなれた。それで、母とけんかばかりした。
「試合に出られるよう、人數が少ないんだよ」と、母にいだ。
ある日、母に言ふた、「ぼくは絶対にいだ」と思つた。チームメイトの顔が浮かんで、みんなと一緒に野球をやりたいと思つた。
二番

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部（四年）

佐々木 権之介さん



金賞

神様からのおくり物の中身

佐伯 理奈

私が続けていたいこと、それは『書くこと』です。

私が書くことに興味を持ったのは、幼稚園のころにお友達からもらった手紙がきっかけでした。私はそのころ、字を読むことも書くこともできませんでしたが、小さなかわいらしいイラストが入った便せんに並んでいたんだからとてもすきなことが書いてありました。ある暗号のように見えてワクワクしたことを覚えています。お母さんに読んでもらい、どうしても私も手紙をわたしたくて、家にあつたひらがな絵本を見ながらネコのイラストの便せんにお返事を書きました。ひらがなの練習をしたことはなくして、たく音や多く音も知らないから、たしかに書けたときの満足感と、次のように手紙を早く届けたくて、手に持つた

も思ひ起こすことができます。

小学校に入学し、一年生の夏休み明けから日記の提出が始まりました。これは宿題の一つのですが、日記に書く内容は自由なので、私はこの日には、たることはもちろん、行事のこと、わが家の愛犬のこと、最近読んだ本のこと、好きなおやつのことやマイブームについてなど、なんでも自分の気持ちのままに楽しく書いています。そして、この日記ノートに提出すると、担任の先生が大きな丸とコメントを書いて返してくださいます。テストみたいに丸や三角やバツがあるのではなく、ペイントを書いて返してくださいます。

1ジいっぽいに大きな丸があることと、先生が感心してください。また、共感してください、ほめてください。たり、共感してください、ともうれしくて、私は日記を書くのが大好きになりました。

それから、私の学校では『言葉のプレゼン』というものがあります。自分と席が近くだつたお友達と席替えではなれてしまふとき

神様からのおくり物の中身

光塩女子学院初等科（5年）

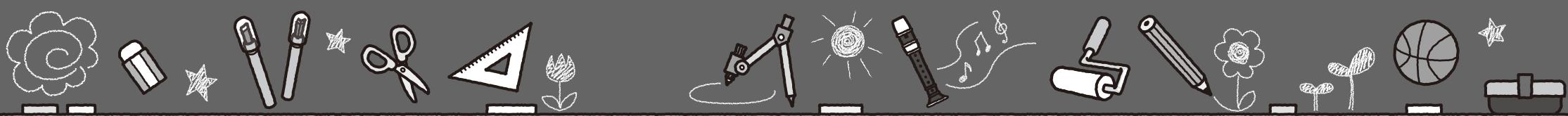
佐伯 理奈さん

で背番号一をつけてマウンドに立つと練習して、まずはチームのエースになれるよい人がいる。ぼくはず、しすと野球を続けていく。ぼくは野球が大好きだ。

選手

躍動感のあるドラマチックなストーリーではなく、挫折あります。書き出しに、読み手はひき込まれます。しかし、ただのサクセスストーリーではなく、挫折あり、再起あり、山場のある構成になっています。また、自分の状況や両親が支えてくれている様子などもしっかりと書いています。気持ちが素直に表せていい文章です。

作文の部

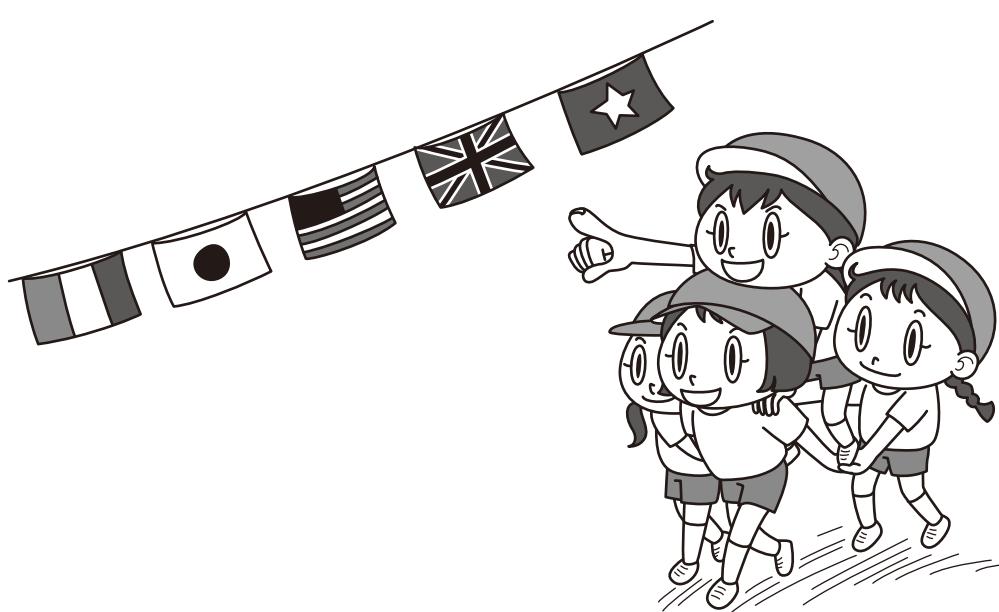
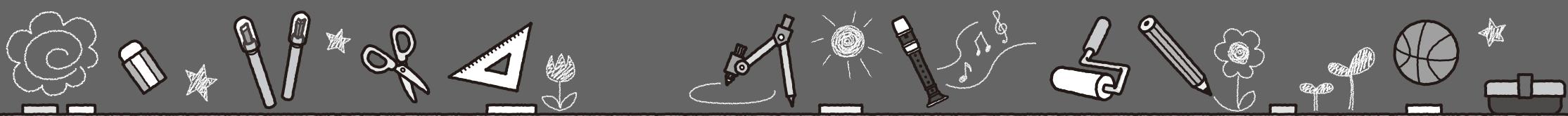


きます。心をつなぎ大切なことを思い出せたりします。時には、時代や国境を超えて私達を感じさせたり、勇気づけたりすることもあります。自分や誰かの宝物になることを感じてあります。

に、おたがいに向けて書いたメツセージを交かんするのです。私は一人一人の顔を思い浮かべ、私が発見した人の良い所やすべきだなと思う所を書いています。以前、わたしにお友達から、
「とてもうれしいことを書いてくれてあります。私が書いたものが人を喜ばせたり、笑顔にさせたりすることができました。がんておどろき、そして、相手に私の気持ちが伝わったことがあります。私が書いたことがうれしくて心がポカポカ温かくなりました。
だからに読んでもらえる楽しみも知り、私は書くこと夢中になっていました。
作文や手紙もたくさん書くようになりました。
そして、文章を書くことで自分の頭の中を整理すること、多くの人に考えを知らせることが手に気持ちを伝えることを経験してしましました。
た。大章が持つパワーはすごいです！だから、もうひとつとのパワーを使えます！

選
せん
評
ひやく

作文の部



い　し　に　さ　は　を　組　お　人　の　中　て　こ　人　は
「　だ　い　じ　う　ぶ　だ　よ。　気　に　し　ほ　い　で　四　レ
と　言　つ　手　も　つ　な　い　で　く　れ　た。　で　も　一　人　の　子
は　な　か　な　か　手　も　つ　な　い　で　く　れ　な　か。　た。　私　は
ま　ご　く　シ　ョ　ク　で　頭　か　真　白　に　は　一　た。　私　だ
は　な　か　な　か　手　も　つ　な　い　で　く　れ　な　か。　た。　私　は
私　の　よ　う　に　世　界　中　で　は　、　人　と　少　し　か　一　て
い　る　人　た　ち　か　た　く　さ　ん　い　る　、　そ　の　中　で　障　害　の
あ　る　人　も　い　る。　み　ん　な　そ　う　な　り　大　く　て　生　き　れ
て　き　た　ん　い　や　な　い　・　出　来　れ　は　き　ん　な　ふ　う　に　生
ま　れ　て　き　た　く　な　か　・　た。　そ　れ　は　全　員　か　思　・　て
い　る　こ　と　け　れ　ど　こ　の　事　実　を　受　け　と　め　な　け　れ
ば　い　け　な　い。　私　は　み　ん　な　よ　り　手　汗　か　ひ　び　い　け
ど　、　み　ん　な　に　理　解　し　て　も　ら　・　て　み　ん　な　と　同　じ
よ　う　に　あ　つ　か　つ　て　ほ　し　い。　私　の　中　に　は　、　こ　の
鬼　い　か　あ　・　た。
今　年　も　向　か　え　た　運　動　会　の　き　は　戦。　私　は　去　年
も　う　か　け　に　、　お　母　さ　ん　に　手　汗　用　の　手　ぶ

練馬区立泉新小学校
(6年)

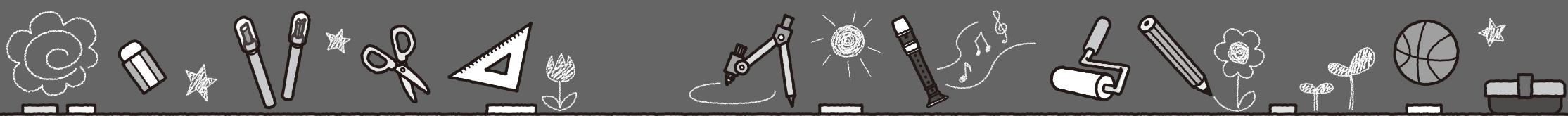
保科

તુલાના

23

22

作文の部



つづけているからつづけたいおふろそ�
わたしは、おふろそ�じをつづけていました。
はじめたきかけは、おうちの人のお手つ
だりがなつ休みのしゃくだりに出たときには、
おふろそ�じをえらんできつたことがはじま
りです。

どうしておふろそ�じをえらんだかといふ
と、「今にをしたらい」。と、おかあさんに
そうだんをしたとき、おかあさんが「おえう
そうじだとたずかるよ」とい、たからです。
それをきいたときは、「かんたんだな」と、
おも、たけれど、やつてみると、けつこうむ
づかしかったです。

おふろそ�じは、つぎのようにやります。
まず、くつ下をぬいで、ズボンのすそをす
こし上げます。水でぬれないようにするため
です。つぎに、水をおふろのかべにかけます。

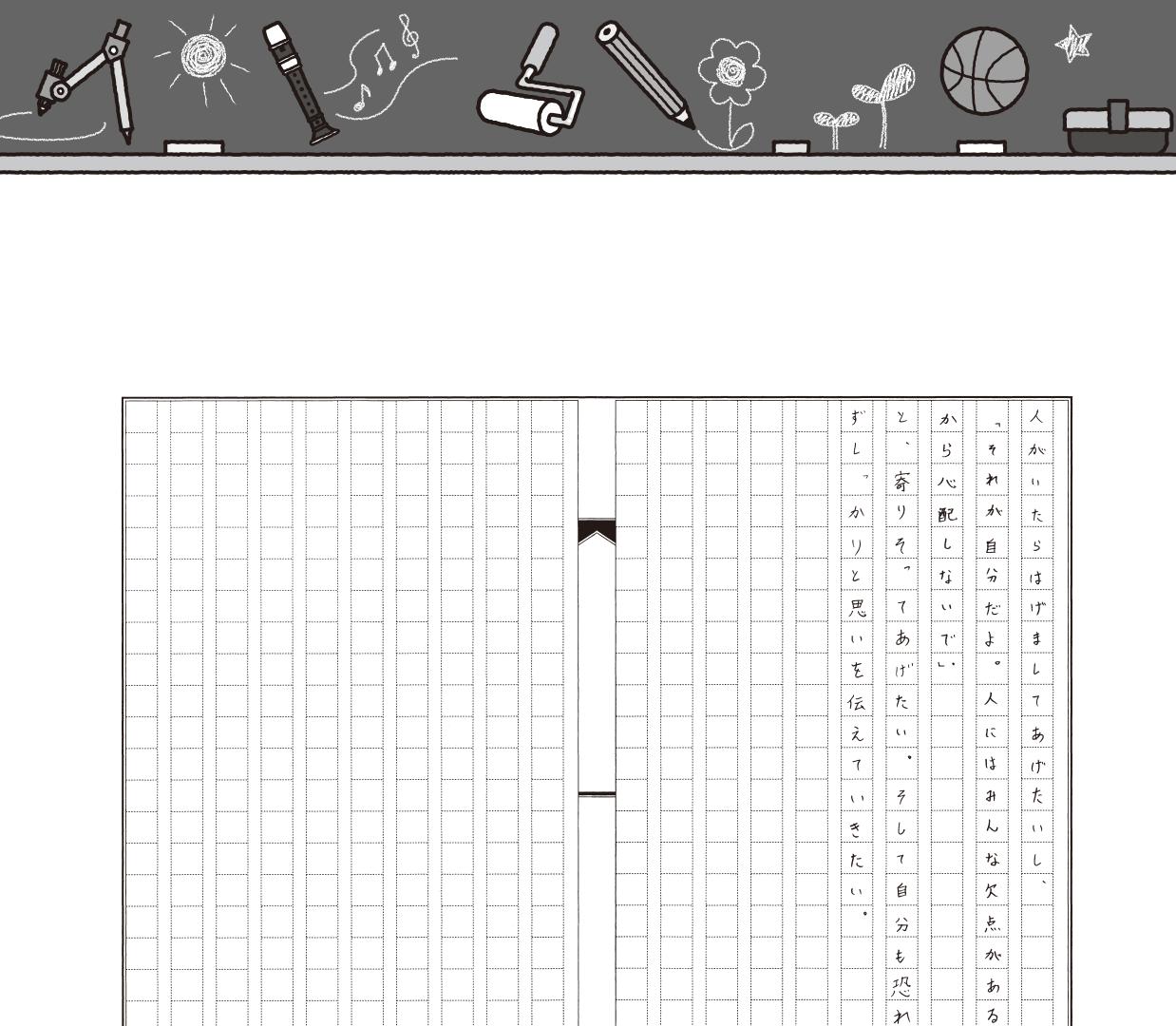
おりじゃなくて、水をつかうのは、おかあさんが「おそろじのときは、水をつかって」といふように手をつけます。かびがはえないようにするためです。つぎに、せんざいをかけます。おふろのかべに六かしょかけます。せんざいは、かけすぎないようにします。そしてしばらくおひておさきます。そのあとだに、せんざいをかたづけます。つぎに、スポンジをもつて、こります。よじれてざらざらのところをたいじゅうをかけて、しつかりとこります。すると、つるつるになります。下のほうは、とどかないのと、中にはいつアしきりこります。さいごに、シャワーで水をかけて、あわをしつかりとります。しつかりどちらないと、せんざいのぬるぬるがのこ、ておふろのおゆにまざってしまってからです。おふろそじをすると、おふろがつるつるになるので、うれしくなります。また、かづくからたまに、「ありがとうございます」とか「はるかの

つづけているから
つづけたいおふろそじ

練馬区立立野小学校（1年）

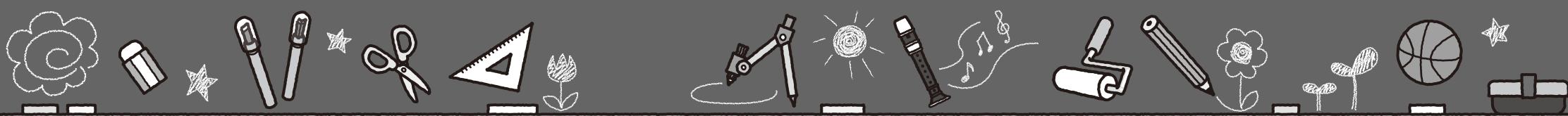
河本 かわもと 遙香 はるか さん

銀賞



思春期の心模様を躊躇するところなく書き綴られていく保科さん。五年生・六年生の騎馬戦をしていく姿を臨場感あふれる心情表現で書き上げていて、構成も「過去」「現在」「未来」と單純ですが、この作品の心情変化を理解する上ではとても分かりやすい書き方です。

選評



銀賞

わたしの大じなモルモット

わたしのつづけていたことは、モルモットのおせわです。はじめたまゝかけは、学校の園足ごいのがしらどうぶつ国に行、たときモルモットをだつこしたことです。その時とても氣もちよくてかわいいからたので、かいだくなりました。家に帰ってお母さんに、「モルモットをかいたいけどいい?」と聞いたら、すぐには「いいよ」といって

くれませんでした。なぜならモルモットのことを何も知らず、「かうとしんてしまふかも知れないからです。モルモットのことをしてやるために、わたしは図書室でモルモットの本をかりて大切なことをノートにまとめました。そしてお父さんにまとめのノートを見せたらなんど、「かっこいいよ」といってくれました。その時は、とてもうれしかったのです。

わたしの大じなモルモット

光塩女子学院初等科（2年）

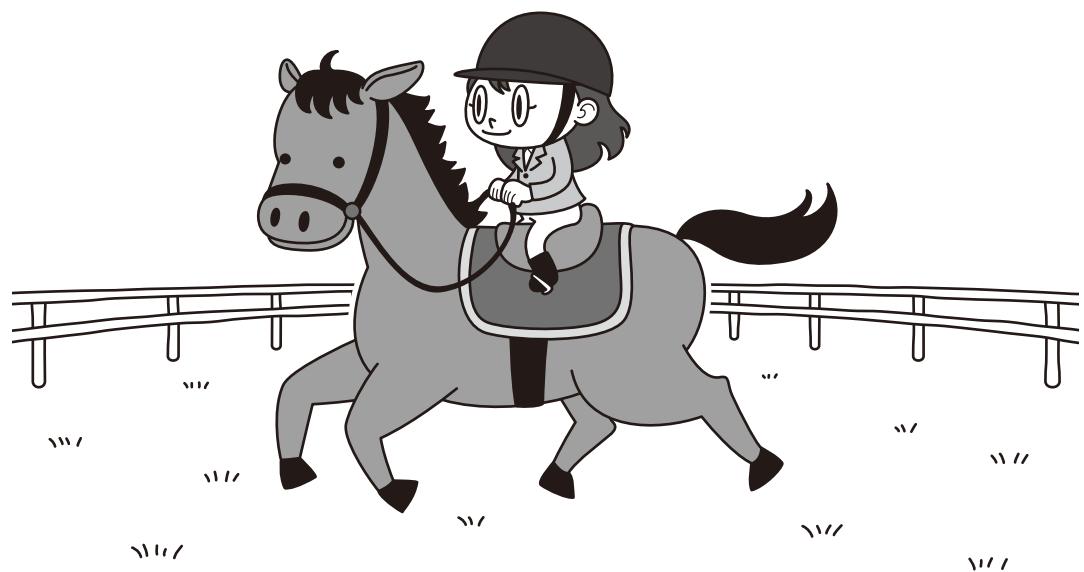
菊池 ひびき
日々希さん

になってほしいとか、ています。小さなことですが、よくしつづけることが大じだとおもいます。

そしてわたしは、お父さんとい、しょにで「トシヨフ」にいました。そこには、モルモットが10匹いました。その中でつむじがたくさんある子と黒と白の毛のながい子を見つけ、この2匹をかうことに決めました。今日は、黒と白の子は「丸」にしました。「もうじのいっぽいの子は「玉」にしました。わたし、がモルモットのお母さんになり、まい日お世わをしています。お世わは一日2回します。朝は今までよりも早くおき水をかけ

ケージの中のそじをします。そして新しいやさいとほし草をいれます。学校からかえたら朝のおせわにくわえトイレのそじをします。お世わはめんどうだと思ふときもあるけれど、わたしにはお母としてこの子たちをみたてるがわたくもうれしくなります。

モルモットが家にきてから8ヶ月がたち、2ひきのモルモットはわたしになつき大きくなっています。





私は今、未来へ向かって歩みつづいています。そして、これからも未来も、ずっと地きゅうで生活します。しかし、私たちのすれ違いが今、大へんな人になっています。
21 固生
なぎさ
光塙女子学院初こう科二年
一地きゅうをすくうためにし

かくやつてみよう。
ちかうた日がうは、本で地きゅうのことを
しらべたり、かんきょううつ、クシヨツ、ヘつ
れて行つてもうつたり、いろいろな方はうで
べん強しました。そのけつか、今の地きゅう
はおんだん化で大へんな二にになつている二
と、そのげんいんの一つは、ニさん化たんそ
である二とかわかりました。この二とだけが
わかつた時、私には地きゅうが一たすけて！
と、ひめいを上げていろよういかんじうれま
した。

まずはじめに私がはじめた二とは、ニアコ
ンをだよるべくつかねないよういからま
うしてもつかう時は、二十九びい上にせつて
いすろことです。もうしょの時はこのあんじ
んをつけてすすしげな音を出でて、少しほ
とあついとかんじる時もありますが、風り
がとあついとかんじる時もあります。

つさがしのけることもわりました。
二ばん目にじついたことは、なるべくゴ

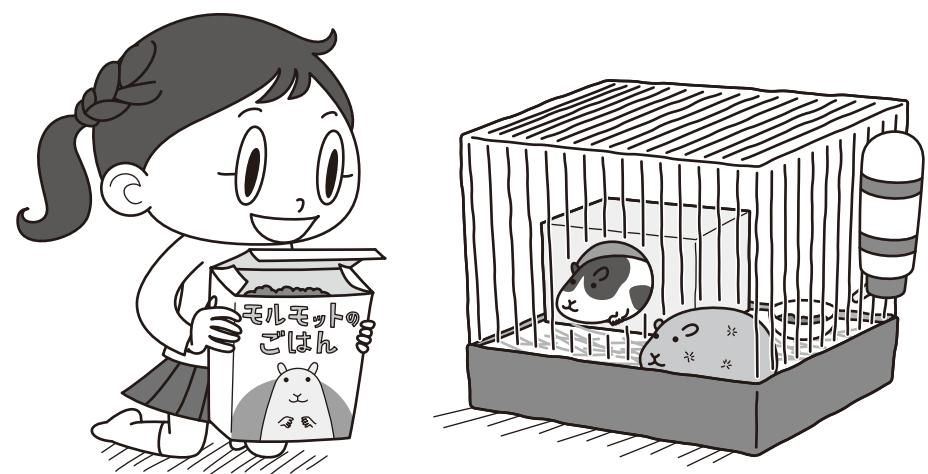
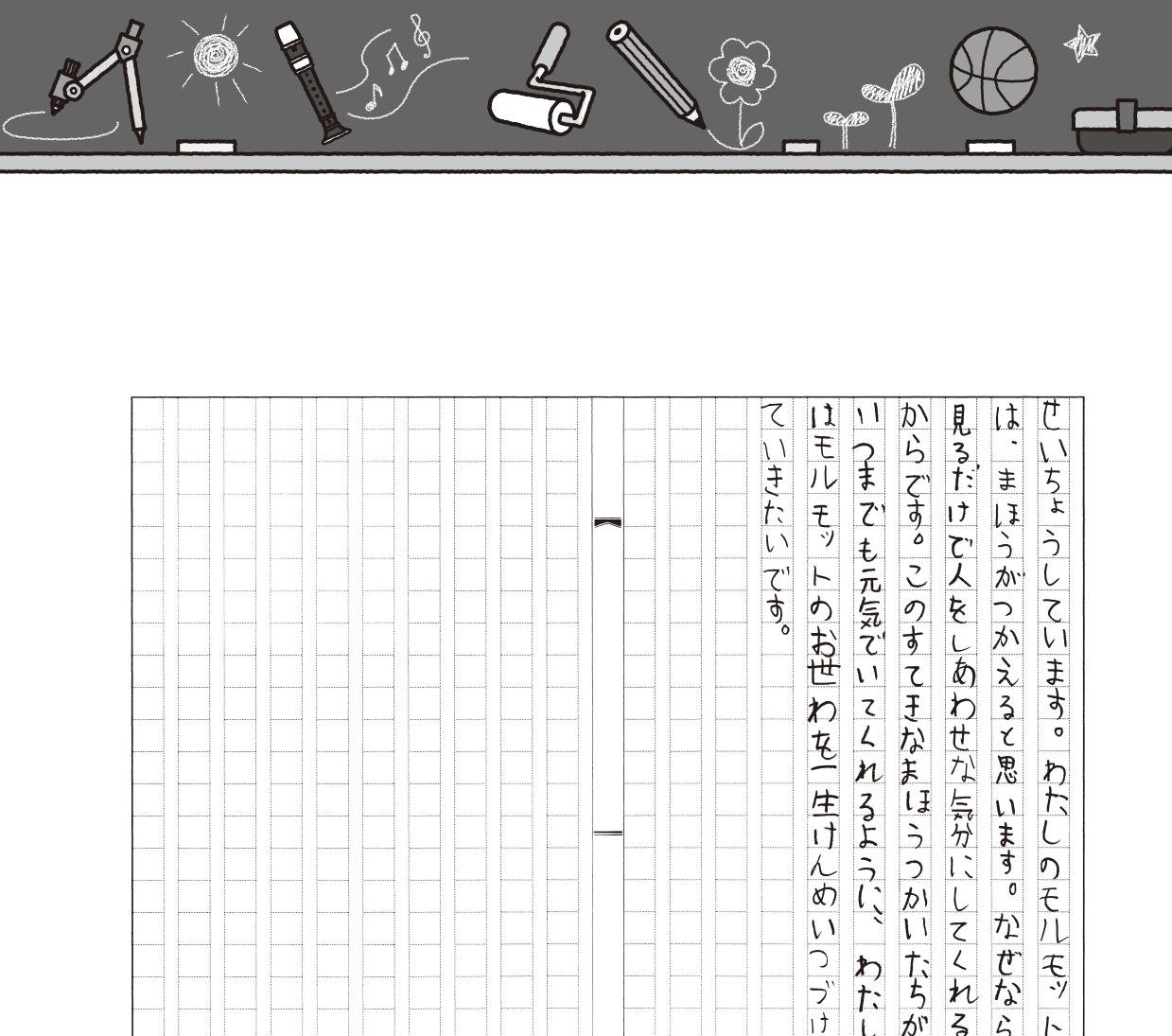
地元の人に頼んで、お手本を貰った。

光塩女子学院初等科
(2年)

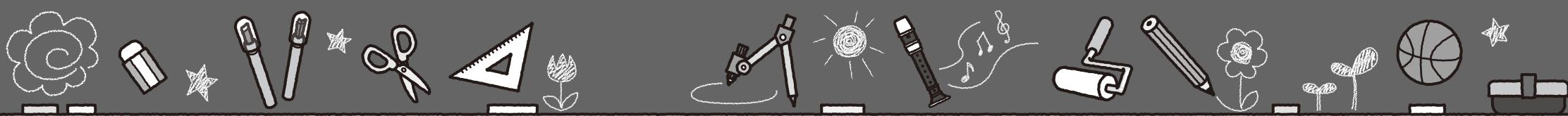
御園牛

なむたさん

銀賞



作文の部



「大好きなん。アノ」
光塩女子学院初等科三年 鮫島 麻里菜

「一度始めた事はどんなに大変ても続けていくのよ。」
これが、私とお母さんとの習い事のおやくそくです。私がようち園の時に、お姉ちゃんがピアノをひいている事がうらやましくて、私はいつも、「まりもピアノをやりたい! 習いたい!」と言つてました。まわりのわ友達は、「バレエやブル、体どうな、どを習つていると書いていたし、私も何かやりたか、たからです。でも、お母さんは、「まだまりはムリよ、小学生になつたらね」と言つてやらしてくれませんでした。

「どうしてダメなの?こんなにやりたいと思つているのに。」やつ对に、「小学生になつたらピアノをやる!」
と私はドレミファソ、とピアノにさわりなが
ら、どんどん気持ちを小くらませていきまし

た。毎日やりたい気持ちがあふれて、ハキ(まし)た。
「まりもそろそろピアノをやってみる?」
と聞かれた時、私はびよんびよん飛び跳ねて
しまいました。
「うん!毎日ちゃんと練習する!ぜ、対に!
やくそくする!」
と言った時は、今でも忘れられません。
「お姉ちゃんみたいに上手にひけるようにな
りたい。出来るもん!」
とへう自信もありました。
毎日ピアノに向かうと、お母さんやお姉ち
ゃんが、「まり、すごいね。もうヒハイ音が出るとい
いね。」
とほめてはげましてくれていたのに、私はな
んだか心が暗くなってしましました。出そう
と思う音が出なくなっていました。出そう
と、じつさへ出てくる音がちがうのです。

A circular badge with a grey flower-like border containing the text "銀賞" (Silver Award) in black.

大好きなピアノ

の時にかなうがエコバッグを持さんしたり、今ふりに、合ふ
テバツシニペーパーをつかうよ」とにしました。この時
きんやぞうきんをつかうよ」といました。
れは、「かなりゴミをへらすのに役立ちました。
ゴミをもやうかりようか少しでもへれば、もや
す時にニسان化たんそもへろと思ひます。
三ばん目にはじめたことは、「つかわなへ
やの電気はすぐじけすことでです。これは当た
リ前のことですが、私は前はけしわすれ
てしまうことが多く、よく
一早く電気をかけしなさい。
て、しかられていました。しかし、「地きゅ
うをするくう」といふ日ひとを立ててからは
自分がみすぐにけすようによつたと思ひます。
私がこうしたことをつづけて、もう二年ひ
上たちますか、気がついたことがありま
えれば、「地きゅうをつくこといつことは

れいじなるく心がきれいにがるようには、地
うかきれいになれば、私たちもすみやすくな
なり、心もおだやかになるのではな
うか。
私は今、小学校二年生です。大人になつたう
地をすくうをすくうしてこくをつづけていた
いです。地をうの人全員がすみやすいせ
いにするためには、そして安全なせかいを作
ために。

光塩女子学院初等科（3年）
鮫島さめしま
麻里菜さんまりな

作文の部



「チリなちゃん、ひとつでも上手になつたじゃ
ない！すごいやよ。」
と先生にもほめてもらえるようになつて、う
れしくて、思わず笑顔になりました。
ピアノを続けていくことは大変かもしれま
せん。でも、どんなにつらくても、続けてい
きたいです。それは私がピアノをひくことが
大好きだからです。私がピアノをひくと、周
りの人達が笑顔になります。いい音をとどけ
るヒ、おだやかな気持ちになります。最初は
全然ひけなか、た曲がひけるようになつた時、
私はピアニストの仲間入りをした気持ちにな
ります。これからも毎日練習して、たく山の
人に感動をとどけられるようにしたいです。

光 塩 女 子 学 院



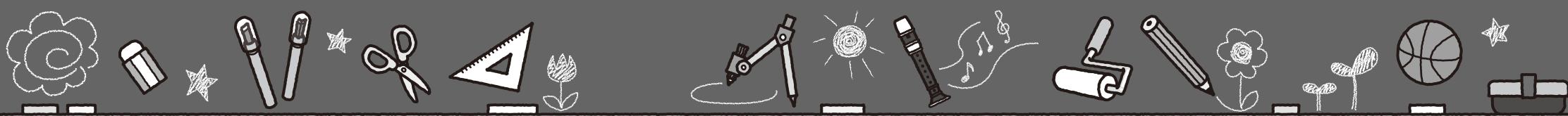
「全然ひけない。リズムもうまくいかないし
音も全然よくない。上手に出来ない！もう
やりたくない。」
など。じやあやめる？やらないといいよ。
でも、本当に今やめるのか、ちゃんと決め
てからにしなさいね。」
と言いました。でもお姉ちゃんが、
「最初から出来る人はだれもいなによ。たく
山練習したから、せれだつて指が動くよう
になつたんだよ。最初からひけたら習わな
くたつていいじやん。いいの？今やめて」と
と言つてくれました。などまだますます出て
きてしましました。「やめたくな！」
「お姉ちゃん、教えて」と
とお願いしました。指はまるくすること、し
せは正しくすること、よく聞くこと。一つ
一つ、教えてもらつたことをやってみたら、
「あら？今、とってもひびいているよ。」
とほめてくれました。そうなのです。モニ本を

光 塩 女 子 学 院

「きちんとやって、心を込めてひくと、良い音
が出るのです。
「これを毎日やるのはとても大変だけど、
こういういい音が出るとうれしくなるでし
ょう？まり、ピアノ好きでしょ？だ、たら
つづけていこうよ。」
とはげましてくれたのです。
私は、つづけていくことは大変なこともた
く山あるけれど、やっぱり大切なことだと思
いました。そして、は、と気つけました。
「お母さんが、小さい時からやらせててくれた
かたのは、本当にやりつけたい、とハ
う気持ちになつてから、と考えていたから
なのかもしれない！」
ということです。私がやりつけたいと思わ
なければ、つづけられないことだからです。
それからは毎日練習することが、少しずつ楽
しくなつていきました。片手練習も、リズム
練習もつまらないと思わなくなりました。レ
ッスンの時にも、

光 塩 女 子 学 院

作文の部



銀賞

つづけていたいこと

光塩女子学院初等科（3年）

城間咲来さん

「つづけていたいこと」と
城間 咲来

七月二十四日、わたしはぶ道館で、柔道のし合に出場していました。けいさつしょたりこうの錬成大会です。

朝六時、いつも練習に通っているけいさつしょにつくと、けいさつかんのみなさんが、「今日のし合がんばってね。」と、声をかけてくれました。柔道ぎにきがえてじゅんびをするなど、りよいよみんなで大きなバスに乗りこみ、ぶ道館へ出発しました。

バスの中では、お兄さんやお姉さんたちと一緒にわざりをしたり、トランプをしたり、とても楽しくてこれからし合をすることがあります。やりわざれるくらいはしゃいでいました。

もうすぐ、ぶ道館につくよー!!この声を聞いてまどの外を見てみると、ものすごい数のせんすたちがバスを下りて、会場の周りを走、たりトレーニングをしていました。

がたが見えました。
「どうしよう…」
わたしは、小学校一年生から近くのけいさつしょの道場で、柔道を習い始めました。柔道は、いろんなわざがあつそれを使い分けっこことで、自分より大きい相手をたおすことができるので、おもしろいスポーツだと思います。まだ体も小さいし、力もありないですが男の子をせお、て一本を取、たりした時は、本当にうれしいです。も、ともとわざをおぼえて、色々なわざを使、て一本を取りたいと思います。

今年の錬成大会では、先ほうとして初めて出場しました。去年までは、かんらんせきから下のたたみにむかっておうえんするだけだったのに、今年は、このぶ道館のたたみに立つ

てし合に出るんだ」と考えると、少しきんちうをしていました。

先生から、思い切りやりなさいと言われて、わたしは、元気よく大きな声を出していました。二分間、わたしは一生けん命わざをかけましたが、相手をたおすことはできませんでした。けいさつがは、引き分け。わたしませんでした。けいさつがは、引き分け。わたしよリ字年も上の相手だ、たので少しもんぞくした思いで先生のところに行くと、

「よくがんばったな」でも引き分けでようこんでちやダメだぞ!!」と言われてしまいました。

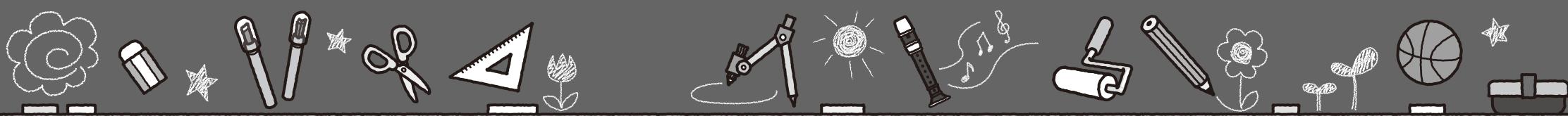
今年の錬成大会は、よい結果をのこせなかたけれど、今回けいさつしたドキドキとし合前に一生けん命練習をしていた他のチームの方を思い出して、来年はぜ、たいにがんばりと思いました。

柔道は、わたしにあきらめないと、小さなてもがかる!といつも気を教えてくれた

スポーツです。これがからも、たくさん練習をしてたくさんメダルが取れるようにがんばりたいです。

今年の錬成大会では、先ほうとして初めて出場しました。去年までは、かんらんせきから下のたたみにむかっておうえんするだけだったのに、今年は、このぶ道館のたたみに立つ

作文の部



銀賞

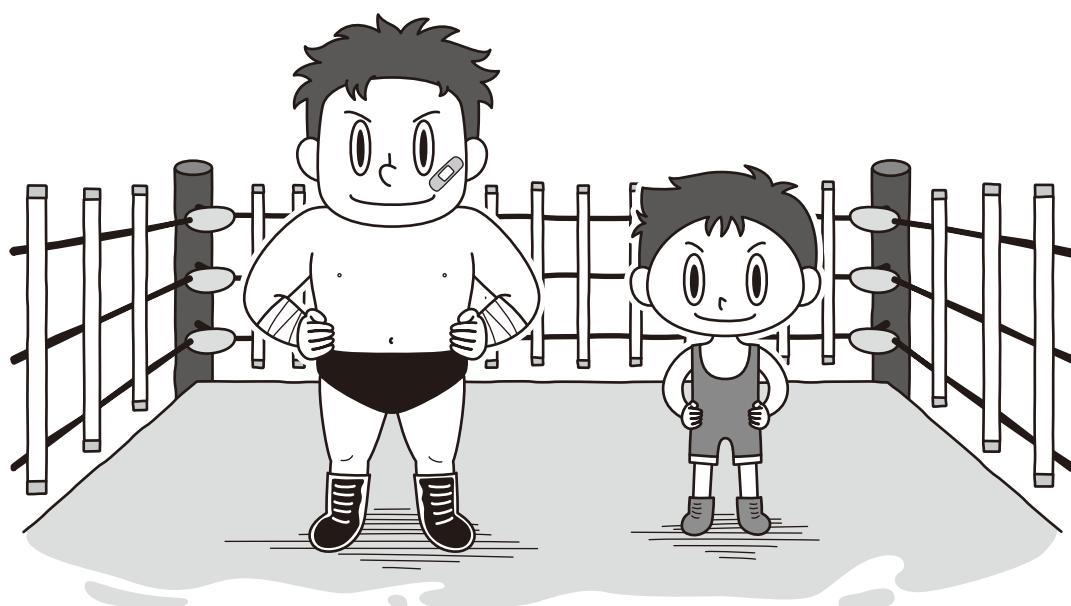
パパ、勝負しよう。

東京都立大塚ろう学校
城東分教室 小学部 (4年)

川村 斗真さん

九時から午後四時半まで練習します。ぼくは幼稚部三年の時、チビッコレスラーになりました。そこで、元でぼくも練習を始めたのです。10歳に教えてもらつて、とびこみ前転やブリッジができるようになりました。ぼくはプロレス大好きだし、パパに教えてもらつて、ちよつとずつ強くなると思います。大すきなパパのようになりました。スラーになるためにも、ともつと練習しま

す。
ぼくが十八歳になつたら勝負します。

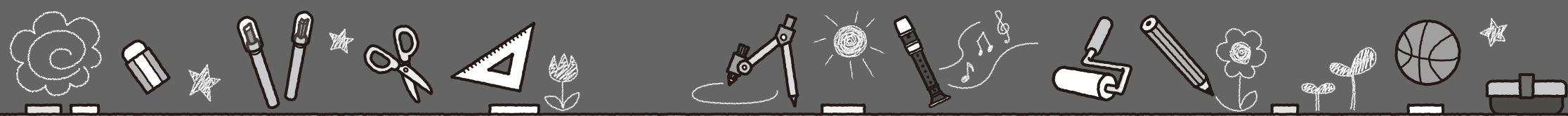


ぼくのパパはやさしいです。とても強いです。家で、毎日、四通りをしてくれます。料理も、パスタやれいめんを作ってくれます。おいしいです。宿題がわからないとときは、パパ帰ってきてくるまで、他の宿題をして待つてします。パパが帰ってきてきたり、問題を分かりやすく教えてくれます。ぼくのパパはとてもやさしいです。でも、し合の時のパパはちがいます。パパはとうとうさんは耳が聞こえない人たちなのです。ロレス团体です。全部で二十人ぐらいい生徒です。のしあいは、デスマッチだからです。けい二のはいっせ、最後のしあいに出ます。パパのしあいは、デスマッチだからです。けい二のしあいは、デスマッチを使つて、相手をたおします。デスマッチは、じゆんびやかねづ

けが大人です。相手もパパもカラスのはへんがさると、お客様がひめいをおげています。パパが入院するんじやないかと思いまして。パパが入院するんじやないかと思いまして。しまいはずごい血が出て、すこくこわかった。どうしてデスマッチをやるのかとパパに聞きました。すると、お客様によろこんでもううためと答えてくれました。パパが会場に入ると、お客様がいっせいにはく手して、大声をあげます。お客様が、すつと待っていましたという顔になります。しょいが始まるときみんな上うこんで、ゴーゴーヒニズミをあげます。みんなパパのファンです。二年前はファンが少なかつたけど、今はたくさんになりました。ぼくはとてもうれしいです。

パパは毎日練習します。仕事が終わり、夕飯を作るとすぐ出かけます。なかとびやかねづきんや練習じあいなどをします。土日は、朝

作文の部



うれしくなり、またがんはろうと思いました。
そして、やとこの夏にかみの毛を切りました。
院があり、その一けんが家の近くにあたの
でそこに行きました。さぶするために二つ結
びのようにして後インディアンのようにと中
にも何とか結び、切ってもらいました。生え
きわからると50セニチ以上あた私のかみ
の毛ですがかた位から計ると35セニチでした。
量が多いと思えていたのに寒々いに切っても
ら、たゞ意外と少なくて私のかみの毛だけで
は作れないんだなと思いました。カツラにす
るためには20人く30人くらいのかみの毛が必
要なのだそうです。
私やお母さんは「長いわね」と言われるた
だ。言うと「えらいわね」と言われるこも
ありましたが人にほめてもらいたくて言つて
いたわけではなくてまだヘアドネーションを
知らない人にも知つてもういいからです。

病気がちの毛が無い人はロングヘアのカツラを好みます。そのためには50セニチ必人にはアドネーシヨンを知、てもらいたいです。私も50センチきふしてその子の好むにあうようにカツラを作、てくれたら良いなと思ひます。

学校ではもう一人の友のためのボ金活動をしてしまったが、今回はもう一人の友のためにかみの毛をきふしました。

お父さんが

「おこづかいは全部を自分のためにつかうのではなくて、一部は人のために使うんだよ。ボランティアでくる事は他にもあるのだ」と分かりました。

かみの毛を切、た今長い時よりもとても楽でのはしていける間は大変だ。たなど思ひましで。切、たら頭はかるくなりますが一番かる

光塩女子学院初等科 五年 山口 瑞花 だれかのために

私の髪の毛はとても細くて長く、クセもあり
りいつもからま、ていました。毎朝きれいに
ドラシでといてもすぐにからま、てしまいま
した。

「どうしてそんなに長いの?」

と言われたり

「大変ではないの?」

と聞かれていました。ここまでのはすのに約
3年かかりました。のばしていた理由はジヤ
パンヘアドネーション&チャリティにきふを
しようと、たからです。その団体は病気で
髪の毛がぬけてしまった子のためにカツラを
作ってきふしてくれます。短か、たとしても
実験に使、たりするそうです。がカツラにする
ためには32センチ以上の長さが必要だそうで
す。きふをするかみの毛はそめていたり、パ
タマがかかる、いても問題なく、ひは、て
切れようなかみの毛は使えないと
です。

多少いたんでも良いそうですがきれいな
かみの毛の方が良いと思い、トリートメント
を優しくつけてお手入れをかんばりました。
家にはかみの毛がいは落ちて、毎日お
母さんのそじは大変そうだし、おうで頭
を洗う時も時間がかかりました。お父さんは
「きふをするのは良い事だけ自分無理を
してまでする必要は今は無いと思うよ。大
人になつてからでも出来る事だし」。
と言つていました。それを聞いて心中で「や
人になつてからでも出来る事だし」。
ぱりあきらめて切ろうかな?」と思つた事
もありました。

二分の一成人式の時に、十歳の記念に着物
を着て髪を結、てもらいました。髪の毛を結
う美容師さんち「長いわね」と驚いていたの
で私はきふのためにのはしていろことを説明
しました。すると

「つやもあ、てきれいな髪の毛。これをきふ
したら喜ばれわね」。

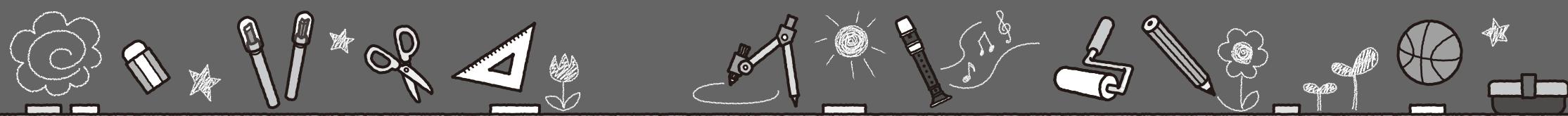
と言つてくれました。それを聞き私はとアモ

だれかのために

光塩女子学院初等科（5年）

山

瑠花さん



銀賞

「あたりまえ」の尊た

朝六時半、公園にラジオの音が鳴り響く。今日はモラジオ体操で夏休みの朝が始まった。僕が続いていることはラジオ体操だ。昨年の夏に引き越してきて、初めてこの地域の子供会のラジオ体操に参加した。七月の最後の一週間、大人や子供、五十人位集まつての体操はとてモニぎやかで楽しかつた。一週間があつた。――

「どう間に過ぎてしまつた。もちろん、僕と弟、お母さんは皆勤！ 夏休みがこれからというのに、ラジオ体操が終わつてしまふのを残念に思つていた僕に、一人のおじさんが声を掛けてくれた。

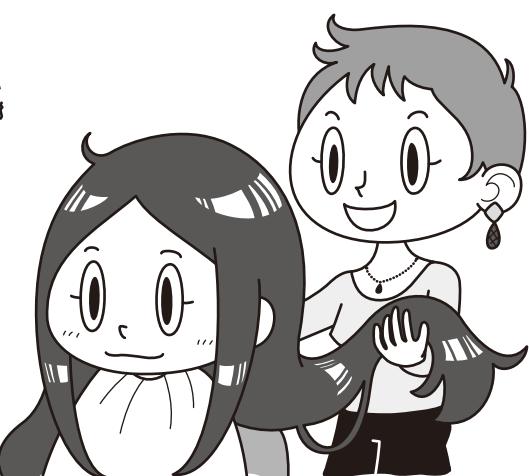
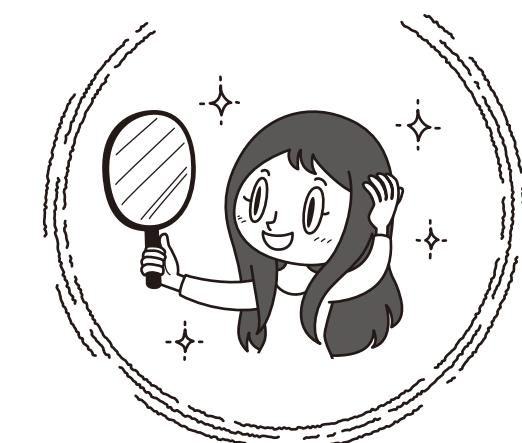
「ラジオ体操、おじさんたちは毎日やつているから、よかつたらおいで。」

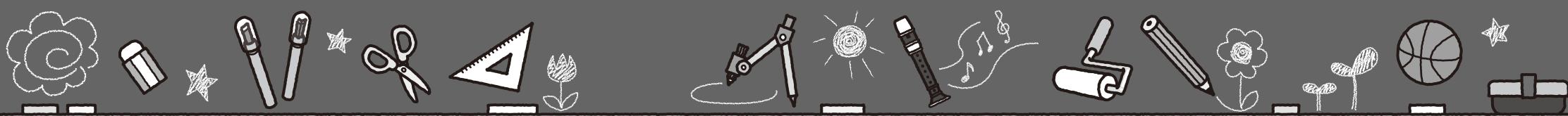
ここから僕のラジオ体操という朝の習慣が始まつた。夏休み、冬休み、春休みだけでなく、学校が休みの週末はなるべく公園へ行つ

た。小雨が降っても冬の寒い朝も、公園に行くと必ずおじさんたちがいて、「おはよう」。声を掛けてくれる。子供は、僕と弟の二人だけ。弟が「サッカー」の試合で忙しい時は、僕は一人で公園に行く。特に冬の朝は寒くて暗くて、僕もなかなか布団から出られずにいる。冬になると、ラジオ体操に来る人の数が減って、おじさんは一人と僕と弟の四人だけのこともある。その中のおじさんは、僕がラジオ体操に行くと必ず来ている。休んだのを見たことがない。おじさんは、公園から少し離れた所に住んでいるらしく、毎朝自転車で公園にやってくる。必ずラジオを持って来てくれるおじさんは「JAPAN」と書いてある上着を着ているので僕と弟は、「ジャパンのおじさん」と呼んでいる。六十歳代から七十歳代でとても元氣がいい。

ある日、お母さんが、ありがとうの反対の言葉は「あたりまえ」だと教えてくれた。僕

中野区立白桜小学校（5年）
江口瑛十郎さん





銀賞

ピアノとの絆

ピアノを習って、色々な曲を弾いていた。そんなピアノを弾く姉の姿に、私はあこがれを抱いた。小さかった私は、姉に譜を引はりだし、スラスラと弾き始めた。他の曲もお願いすると、どんな曲も弾いてくれた。たくさんの方の曲を弾けるようになりたい、そう思った私は母に、ピアノをやりたいとお願いした。母は姉が習っている先生の

ピアノとの絆
青木 ひより

うだん、練習の時だけでなく、気分転かんをする時にも弾くピアノ。今では友達のようでも、無くてはならない存在。約七年間続けてきたけれど、ピアノと仲良くなるのは五歳ごろ。私がじっくりと姉の影響だ。私は、七才年のはなれた姉がいる。姉も小さくころかんの時間が必要だった。

ピアノを習って、色々な曲を弾いていた。そんなピアノを弾く姉の姿に、私はあこがれを抱いた。小さかった私は、姉に譜を引はりだし、スラスラと弾き始めた。他の曲もお願いすると、どんな曲も弾いてくれた。たくさんの方の曲を弾けるようになりたい、そう思った私は母に、ピアノをやりたいとお願いした。母は姉が習っている先生の

ピアノのレッスンは、とても楽しかった。私は、まだ手が小さいね。と言われたが、どうしてピアノを習いたかった。私はこの先生に教えてもらうことになった。

ピアノのレッスンは、とても楽しかった。私は、まだ手が小さいね。と言われたが、どうしてピアノを習いたかった。私はこの先生に教えてもらうことになった。

ピアノのレッスンは、とても楽しかった。私は、まだ手が小さいね。と言われたが、どうしてピアノを習いたかった。私はこの先生に教えてもらうことになった。

青木 ひよりさん
あおき

はジャパンのおじさんが毎朝ラジオを持って公園にやってくるのを当然のことのように思っていた。でも、寒くても、暗くても、小雨が降っていても、眠くても、体調が悪くても毎朝必ず公園に来るということは、大変なことだと思う。ジャパンのおじさんは本当にすごい。それ以来、僕は毎朝心の中で、ラジオがないから体操ができないのではなく、重大だ。ジャパンのおじさんは本当にすごい。おじさん、今日もありがとう！

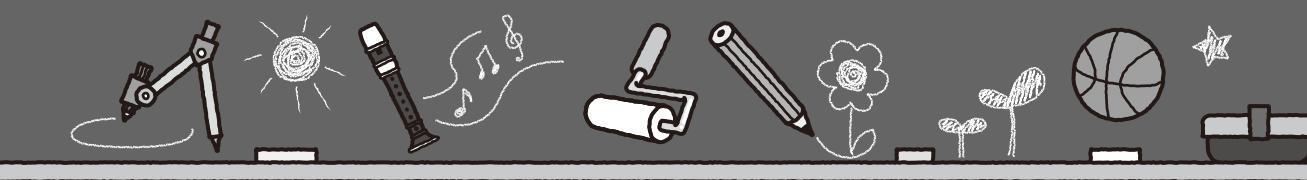
と言っている。おじさんは、照れくさくて今更言えないけれど、おじさんが大変な時には、僕も何か手伝えることがあるといいなと思う。

ところが、八月二十九日の朝は違った。いつまでたってもラジオ体操が始まらず、おじさんは熱心にラジオ放送に耳を傾けていた。一人のおじさんが僕たちに、ラジオ体操は中止だよ。

「北朝鮮がミサイルを撃つたから、今日はラジオ体操は中止だよ。」
と教えてくれた。僕はホッとしたが、あたりが浮かんだ。胸がドキドキして不安になってしまった。もし戦争になつたら、いつミサイルが落ちてくるかわからない。たくさんの尊い命が奪われる事になる。僕の家族、友達、目の前のおじさんたち。公園から帰るとお父さんが、「今のところ、戦争は起きていないから大丈夫だよ。」
と教えてくれた。僕はホッとしたが、あたりが浮かんだ。胸がドキドキして不安になつた。
最初は健康のために、引越してきたこの町のことを知るために、なんとなく始めたラジオ体操だった。でも、いつのまにかそれ以上的目的ができていた。おじさんも僕も元気で、このあたり王えの、何気ない朝が続いていくことを願っている。これからは、あたりまえの事に感謝しながら、ラジオ体操を続けていこうと思う。

作文の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉 藤村 由紀子 江東区立東陽小学校主任教諭（東京都小学校国語教育研究会）
松江 宜彦 中野区立白桜小学校主任教諭（東京都小学校国語教育研究会）



応募された作品はどれも、自分が経験したことや、考え方を見つめ直した言葉が綴られていました。題名や情景描写に工夫を凝らしてある作品もあれば、心情を素直に表している作品もありました。一人ひとりが表現した世界を追って、楽しく読ませていただきました。

低学年の作品には、家庭や学校で過ごしたことから、できるようになつたこと、うれしかつたことを中心にえがかれている内容が多くありました。素直な表現や、題材にしたものへの思いにあふれていて、書いたみんなの生活中にある、すてきな出来事を追体験しながら、思わず笑顔になつてしましました。

中学年の作品には、学校の友達や習い事のコーチや友達が多く登場しました。できなくて悔しい思い、会えなくなつて寂しい気持ち、それらを乗り越える努力などが丁寧に書かれている作品が多数あり

ました。自分の目標を見付けて、周りの人との関わりの中で手にし始めた思いは、今後もみなさんの心に残ると思います。

高学年になると、日々の生活を振り返り、自分の心と向き合うものが増えました。これまでは気付かなかつた、周りとの違合つものが増えました。これまでらないうことの間で葛藤し、解決策を探る。また、そうした折りにかけられた一言や、ふと見えた周囲の仲間、家族。そうした、日常にからつと光った思いをこめて、一字字、一文と書かれた作品に、心が揺さぶられました。

書くことは、考えること。あふれる思いや、伝えたい事柄があつても、いざ鉛筆やペンを持ち、紙に向かうと、なかなか自分がイメージしていくとおりに表現することは、難しいものです。しかし、今回、「書きたい」という気持ちがあつて書いた文章からは、文の

審査中の藤村由紀子先生（左）、松江宣彦先生（右）

巧みや以上に書き手の心が伝わる
のだと、うことを、応募してくれた
さつたみなさんの作品を読んで感
じました。深い感動を受けまし
た。ぜひ、読み返したり、ほかの
ひとの作品を読んでみたりしてくだ
さい。そして、これから先も「つ
づけていきたいこと」を積み重ね、
成長していくよう、心から応援
しています。

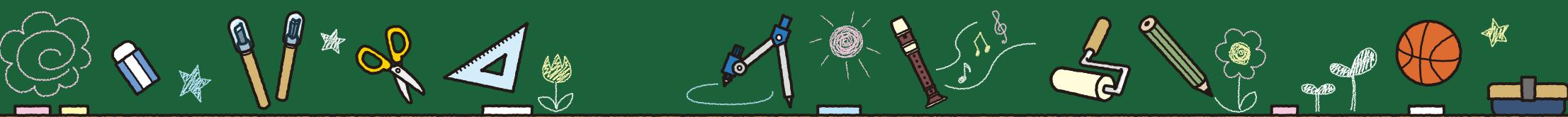
かじんじん難しくなるにけれ、宿題も大変になつていいからだ。ピアノ以外にやることもたくさんあり、練習できる時間も短かた。しかし、次のレッスンまでには仕上げなければならぬ。いつしか、私にと、てピアノは生活の中で抱える一つの大きなやみとなつたのだ。

こんな私を変えた大きな出来事があつた。それは、一年に一度ある学校行事の一つ、音楽学習会だ。学年で合唱、合奏を全校にひううする。この、合唱の伴奏に私はチヤレンジしようと思つた。オーディションまで、多くの時間をピアノにあてた。そして本番、練習通り弾けて合格する自信がついた。そして合格発表。私は伴奏者に選ばれなかつた。この時の人やしさは、今でも覚えていろほどだ。

私は、この出来事ひ日ごろの練習の積み重ねの大事を痛感した。この日から私は、ピアノに向う回数が増え、ぐんぐん上達し、ピアノのことから心の底から好きになつた。今は

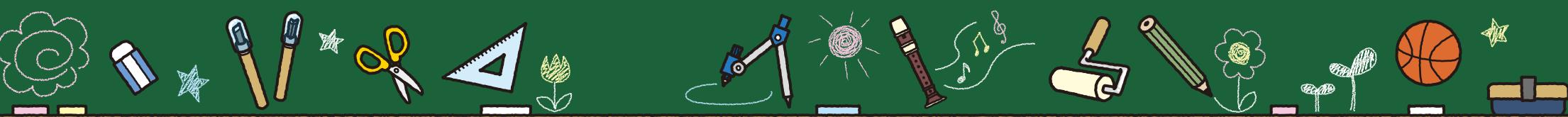
ピアノを苦痛なんて思うことはない。また、この成果が実を結んだのか、四年と五年に伴奏者に選ばれた。音楽学習会で伴奏することできただけだ。

私は、練習の積み重ねはその時つらいと感いても、必ず結果につながっていくといふことを知った。小学六年で東京に引っ越したが、もちろんピアノを習っていい。今は発表会に向けて、難しい曲をやっている。難しいからこそ練習のやりがいがある。この練習が、発表会本番につながる、という前向きな気持ちで練習にはげんでいい。これは四年生の私が教えてくれたこと。このことを胸に、私はこれから先も、ピアノを続けていいきたいくと思う。



コンクール入賞者





うんどうかいのおもいで

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学校（1年）

茨城 さくらさん



チエロをひく

絵画造形サークル（2年）

大槻 恋生さん

選
評

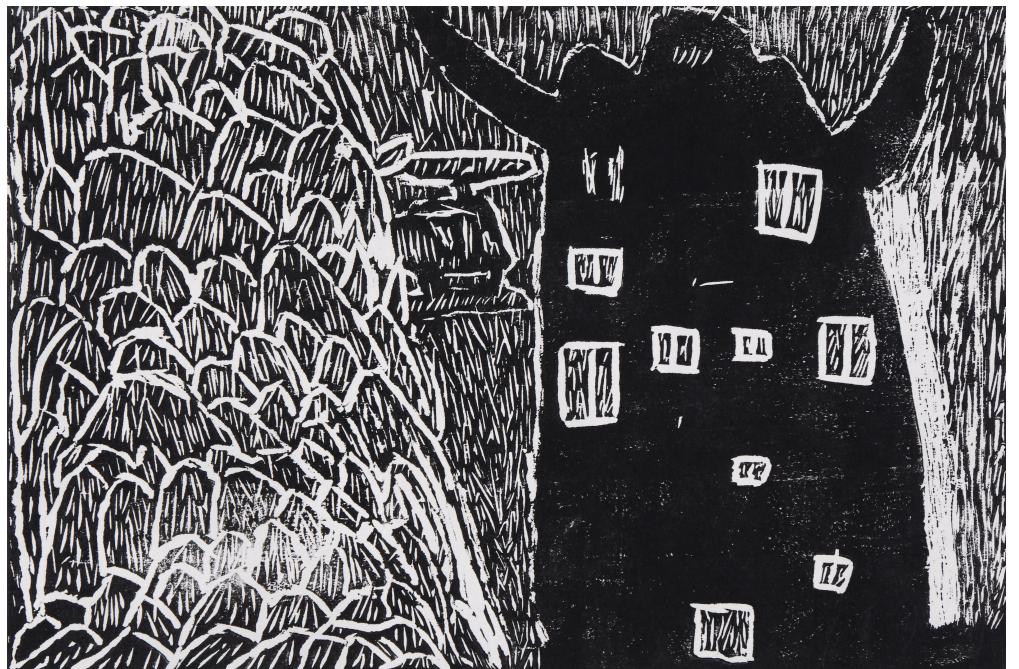
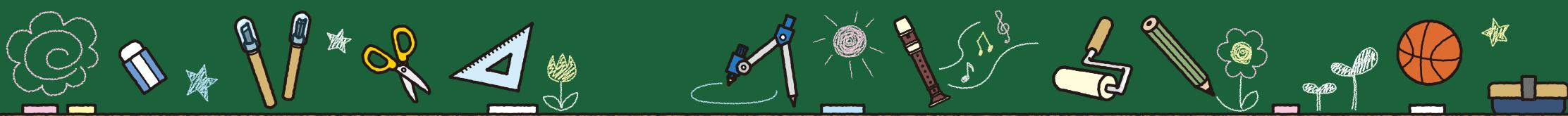
チエロを左手でしつかりと持ち、ポーズをとる演奏者。その視線の先には、チエロがあります。作品に近付いて、耳を澄ますと、チエロから流れる音楽や演奏者の歌も画面から聞こえてくるような作品です。楽器や演奏者のしなやかさが、とても印象的ですね。この作者は、チエロをひいたことがあるのか、音楽が好きな人かもしませんね。



とても迫力ある配置で人物の表情がとても印象的な作品です。大きく配置された人物は自分自身なのでしょう。版にする紙をいろいろな表したい形に切る、貼る、を根気よく繰り返してつくっている様子が感じされます。また、1年生ということから初めての運動会に参加した楽しさ、今にも動き出しそうな元気さが伝わってきます。

選
評

いがらぎ
茨城 さくらさん



金賞

おにの山

江戸川区立下鎌田西小学校（4年）

藤瀬 周さん

選
評

初めて彫刻刀を使って版画を彫つて表したのでしょうか。山の木々の重なりや、窓のようないい夏の山、虫取りの網、麦わら帽子、手をつないでいる様子、表情など見る人に楽しい思い出を伝えてくれる作品です。



金賞

夏の思い出

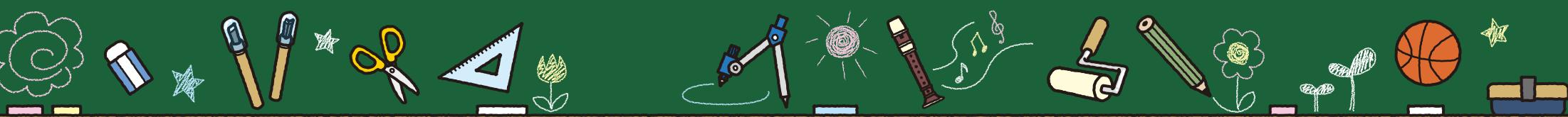
東京都立葛飾ろう学校小学校部（3年）

猪狩

月乃さん

いろいろな材料を使っておもしろい模様を生かし組み合わせて表しています。黒1色で刷らされていることから模様のおもしろさをより引き立たせていました。画面に構成された二人の表情が楽しそうですね。お天気のよい夏の山、虫取りの網、麦わら帽子、手をつないでいる様子、表情など見る人に楽しい思い出を伝えてくれる作品です。

選
評



金賞

真夜中のふくろう

多摩市立諏訪小学校（6年）

池上 琴音さん

選
評

このふくろうは、何を考えて
いるのでしょうか。何かを見つ
めるふくろうの瞳が、とても印
象的な作品です。刷りに使って
いる色は、とてもシンプルです
が、ふくろうの羽根の向きや質
感、また、強い力で見つめるふ
くろうの瞳の表現には、とても、
見る側も驚かされます。6年生
で、今までの経験を生かした作
品となっていますね。



金賞

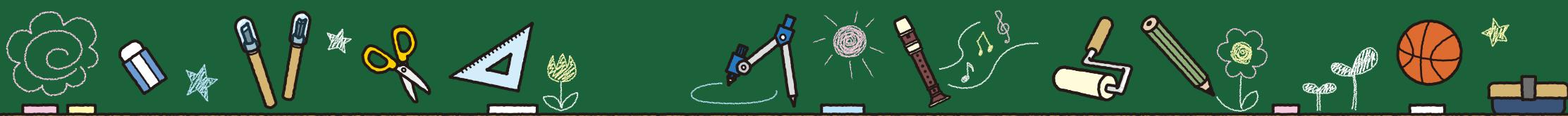
ダークホース

国立市立第四小学校（5年）

任 賢さん

選
評

彫り進み版画は、彫り、刷り
を繰り返し重なる色や模様を計
画しながら表していく少し難し
い技法です。堂々と画面中央に
配置された白い馬、ライトアッ
プされた背景でより白い馬が際
立っています。丁寧に彫られた
跡から、彫刻刀で考えながら彫
り、刷り重ね、紙をめくつて完
成したときの達成感、構図や馬
の表情から前後の物語までも想
像させてくれます。



銀賞

23版目のカメレオン

慶應義塾幼稚舎（2年）

鈴木 栄人さん



銀賞

ながながうさぎ

品川区立城南小学校（2年）

大滝 雪稻さん

おおたき ゆきね



銀賞

犬

絵画造形サークル（1年）

佐藤 凜幸さん



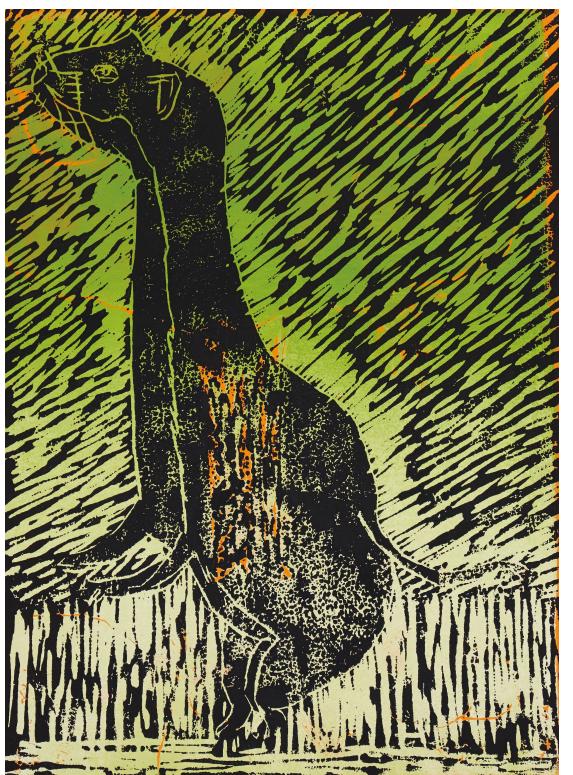
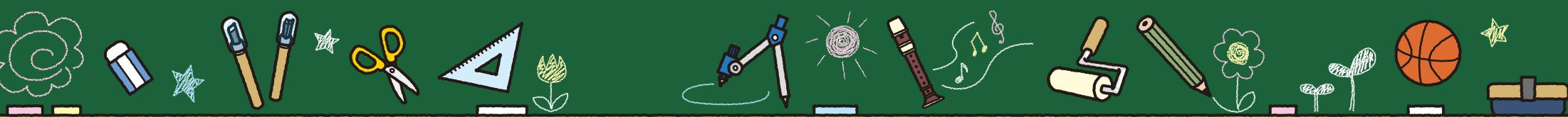
おはなばたけ

渋谷区立中幡小学校（1年）

塩野 さなさん

しおの さなさん





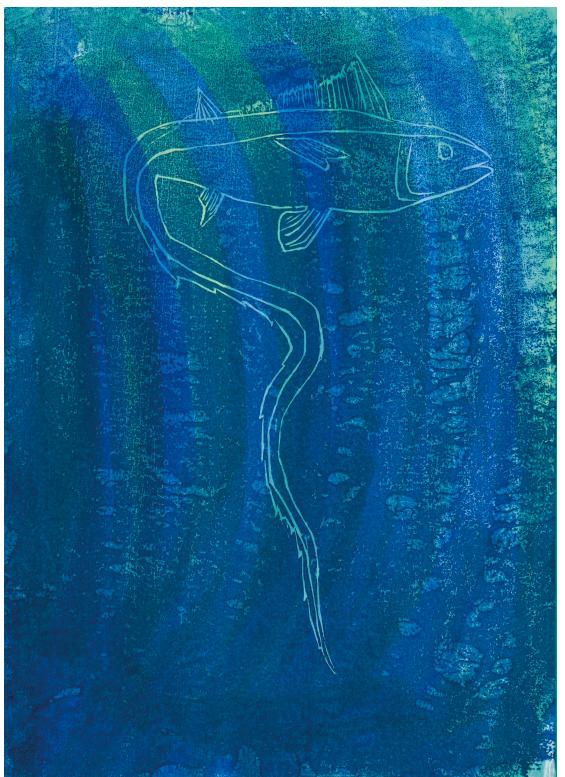
銀賞

虹の四次元魚

江戸川区立東小岩小学校（4年）

一倉
いちくら

諒介
りょうすけ



足立区立平野小学校（4年）

澤井 優衣
さわい ゆい

銀賞

重ねてあらわす

中野区立新井小学校（3年）
黒田 恋子
くろだ こいこ

銀賞

馬につたよ。

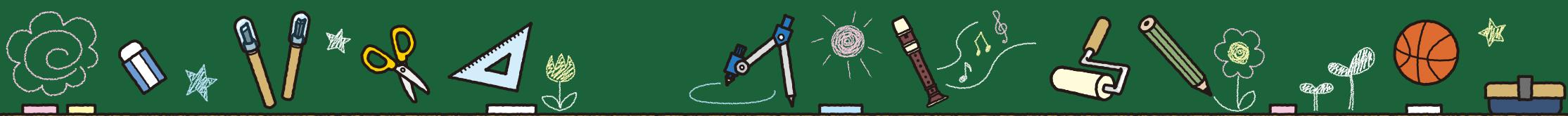


江戸川区立東小岩小学校（3年）

中川 アラタ
なかがわ あらた

銀賞
いろいろな色の
きゅううでん



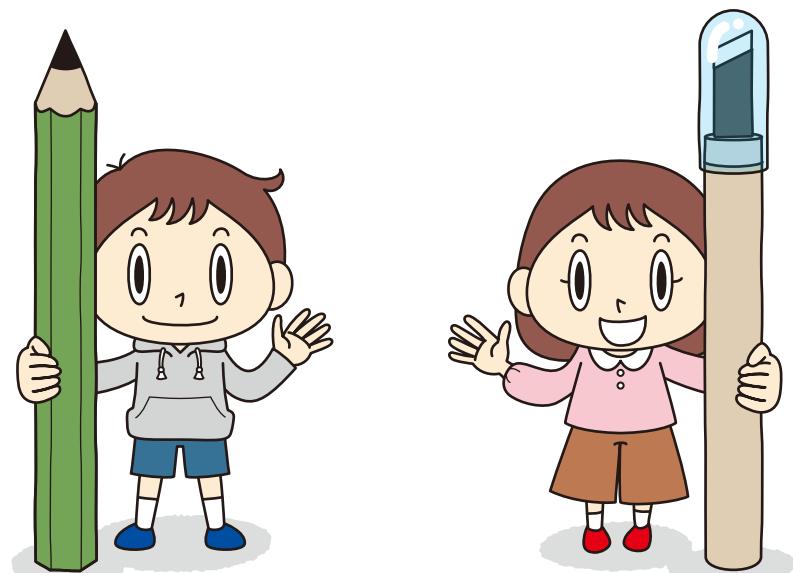


銀賞

幸福の神

大田区立多摩川小学校（6年）

清水 康平さん



中央区立有馬小学校（5年）

齊藤 翔さん

深海パーティー



銀賞

不思議な丘

葛飾区立ひすげ小学校（5年）

松田 小桜さん



銀賞

不思議な丘

応募いただいた学校と作品数

学 校 名	作文	版画	合計
足立区立千寿小学校	1		1
足立区立千寿常東小学校	2		2
足立区立東渕江小学校	2		2
足立区立平野小学校		192	192
荒川区立第二日暮里小学校		4	4
江戸川区立下鎌田西小学校		12	12
江戸川区立東小岩小学校		91	91
大田区立山王小学校	2		2
大田区立洗足池小学校		8	8
大田区立多摩川小学校		10	10
大田区立矢口西小学校	4		4
絵画造形サークル		20	20
葛飾区立こすげ小学校		32	32
葛飾区立末広小学校		57	57
国立市立国立第四小学校		27	27
国本小学校	1		1
慶應義塾幼稚舎		1	1
光塩女子学院初等科	24	4	28
江東区立第四砂町小学校	4		4
江東区立元加賀小学校	1		1
国分寺市立第五小学校	289		289
小平市立小平第六小学校	2		2
品川区立伊藤学園	12		12
品川区立御殿山小学校	15		15
品川区立城南小学校		83	83
品川区立第三日野小学校		29	29
渋谷区立中幡小学校		223	223
聖徳学園小学校	2		2
新宿区立市谷小学校	1		1
杉並区立浜田山小学校	2		2
杉並区立方南小学校		18	18
墨田区立第四吾嬬小学校		57	57

学 校 名	作 文	版 画	合 計
墨田区立中川小学校		4	4
墨田区立両国小学校	1		1
成蹊小学校	1		1
台東区立谷中小学校	2		2
多摩市立諏訪小学校		3	3
中央区立有馬小学校		167	167
中央区立常盤小学校		22	22
調布市立深大寺小学校	1		1
筑波大学附属小学校	1		1
東京学芸大学附属世田谷小学校	1		1
東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部		22	22
東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部	6	20	26
東京都立葛飾ろう学校小学部		4	4
東京都立鹿本学園小学部	1		1
桐朋小学校	1		1
中野区立新井小学校		1	1
中野区立白桜小学校	16		16
練馬区立下石神井小学校		149	149
練馬区立泉新小学校	29		29
練馬区立田柄第二小学校		99	99
練馬区立立野小学校	1		1
日野市立日野第六小学校	2		2
福生市立福生第一小学校		31	31
宝仙学園小学校		1	1
瑞穂町立瑞穂第四小学校		23	23
港区立青南小学校	1		1
明星学園小学校	1		1
武蔵野市立境南小学校	1		1
武蔵野市立第四小学校	1		1
明星小学校	1		1
目黒星美学園小学校	15	5	20
総 合 計	447	1,419	1,866

審査員の先生 〈敬称略〉

たなか
田中
ごとう
後藤
あけみ
明美
まりこ
真理子

品川区立立会小学校図画工作専科主幹教諭（東京都図画工作研究会）

版画は鉛筆やクレパス、絵の具などで描く活動と比べて、版をつくる、インクをつけて紙に写す、など工程が増え、写したときの見通しをもつ、用具や環境を用意するなど指導や準備などにも根気の必要な活動です。

しかし、子どもたちにとつて得られることが多い活動であると言えます。いろいろな材料で版をつくる楽しさ、インクをローラーで伸ばしていく気持ちよさ、写しとるときのそと紙をめくった時の驚きや喜びなど各工程で得られる感情を味わい習得していく技能の多さから图画工作の教科書にも低中高学年すべてに版画の題材が掲載されています。

審査会場にはたくさんの応募作品が並べられ、作品それぞれから子どもたちの取り組む過程や込められた思いに想像をふくらませ、審査をさせていただきました。

低学年は初めての紙版画や造形教室での高度な取り組みまでのびのびとした作品が多く見られまし

た。紙版画の版のパーツを切り取り、小さな手で糊付けし組み合わせて、いく様子やローラー遊び、スタンプ遊びから生まれる表現の楽しさなどを感じることができました。

中学年になると、凹凸をつくるための材質感の違うさまざまな材料を組み合わせた作品や、初めての彫刻刀を使つた木版画の作品まで多岐にわたる表現が出てきました。特に彫刻刀では何本も丁寧に彫つた跡からけがをしないよう慎重に彫つていく様子が伺えました。

高学年では、構図の工夫や、刷り上がりを見通して取り組む彫り込み版画や一版多色刷り版画、同じ版を回転させたり重ねたりしながら工夫を凝らして仕上げた力作が多く見られました。特に彫り進み版では、彫つてから1色目のインクで刷り、前の色を残したいところをまた彫つて、2色目のインクを重ねて…と何度も刷りや彫りを繰り返し、ようやく完成したときの達成感を味わえた様子がよく云わっていました。



審査中の後藤真理子先生（左）、田中明美先生（右）

全体を通して審査の際には版画
活動ならではの表現を生かしてい
るかどうかを軸とし、こだわりの
あるモチーフ、感動した思い出や
大切にしたい記憶など、版画の表
現を通して作者の思いを強く感じ
ることができるのは、作品を中心
させていただきました。

最後になりましたが、子どもた
ちの豊かな表現を引き出し、版画
作品を応募してくださった指導
者、保護者の皆さんに心より感謝
申し上げます。



一人より二人、二人より三人と広がったたすけあいの輪。
確かな今日と、健やかな未来を守りつづけて、
全労済は創立60周年を迎えました。
常に時代にあった保障のカタチを提供していくことで、
これからも、支えあう安心をさらに大きく広げていきます。

全労済の住まいの共済	新火災共済・新自然災害共済
新せいめい共済	マイカー共済
交通災害共済	新セット移行共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として
共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとり
ある暮らしをめざしています。出資金をお支払い
いただいて組合員になれば、各種共済をご利用
いただけます。

保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会

応募作品数・学校数

作文の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
応募作品数	20	88	78	92	101	68	447
応募学校数	13	8	8	7	11	9	35

版画の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
応募作品数	92	167	52	686	303	119	1,419
応募学校数	6	7	7	20	13	7	31

応募作品数合計 **1,866**点

応募学校数合計 **63**校

※作文の部、版画の部の両方、および複数の学年にご応募いただいた学校
があるため、各部の応募学校数の合計とは異なります。

全労済東京推進本部



全國労働者共済生活協同組合連合会

東京推進本部

(東京労働者共済生活協同組合)

〒 160-0023 新宿区西新宿7-20-8
TEL : 03-3360-6055